FREAKS

UNDERGROUND FAST HARDCORE MAGAZINE

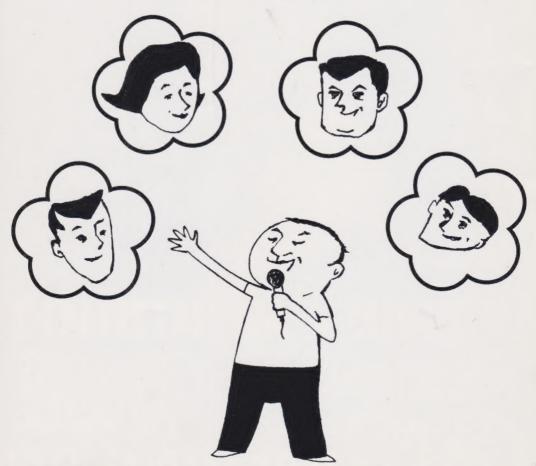
ISSUE #2

COREBEYOND NECROPSY SENERGES
* PREAGAIN SS! ARUMURA
** HOLDING ON



(F-FACTORY)

Good Design for Good People



F-FACTORY 2-31-7-103 Shimoyugi, Hachioji-shi, 192-0372 Tokyo, Japan tel. 0426-70-6135 fax. 0426-70-6136 design@f-factory.com http://www.f-factory.com/



EDITORIAL DESIGN & DTP

VITAMIN X (1)/4 Straight Edge Fastcore from Holland

HOLDING ON [3] Youthcrew Fast Hardcore from Minnesota

SENSELESS APOCALYPSE 6 Grind Hardcore from Shizuoka

KRIGSHOT Crusty Hardcore from Sweden

GATE Straight Forward Grindcore from Tochigi

REAGAN SS 25 Devil Worshipers from L.A.

GORE BEYOND NECROPSY 20 Analdrillingrind Harshit Core from Kanagawa

CONTENT POLICY (1) About FAST



RECORD REVIEWS 35 Reviews of Over 50 EP/LP/CD



FEATURE Final SLAP A HAM Special



GALLERY 55 Photo Gallery





NEWS 5 Gig and Release



CONTENT POLICY

現在日本は80年代の『UWF』ブームを凌ぐ空前の格闘技ブームだが、私は素直に楽しめない。決して出場選手が100%二流というわけではないが、内容が薄くエンターテイメント性が欠如しているのが原因だ。海外で大した実力や結果を出していない選手を、あたかも超一流の格闘家であるかのようにメディアによってでつち上げられ、『PRIDE』や『K-1』こそ最強の格闘技であって、プロレスは"八百長で見せ物"などと言って喜ぶ馬鹿共を見

ると、なんて貧相な考えをしているのだと思ってしまう。所詮娯楽にも関わらず、"本気"を求めてどうする? ガッチガチに固められたルールによって、中途半端にスポーツ化してしまったのもマイナス要因だ。『PRIDE』を観てノールールだと言う奴はさすがにいないと思うが(もしいたらそれこそ笑っちまう)、もし"本気"の戦いを観たいなら"スポーツ"を観るのではなく、ストリート・ファイトの方がよっぽどリアルで面白い。



約5年程前、『PRIDE』での高田対ヒクソン の試合は盛り上がった。高田は当時ベイダー や北尾達を倒し"世界最強のプロレスラー" と言われる程の実力と結果を残していた。ヒ クソンに関しては、第ホイスの初期『UFC』で の活躍により一躍有名になった感もあるが、 日本で行なわれた『UFC』で華々しく日本デビ ューをし、自称400戦無敗という肩書きの大 きさを日本のファンにも見せつけた。プロレ スこそ最強と信じる高田と、グレイシー柔術 こそ最強と言い放つヒクソン。この試合には 時代を越えたバックボーンが面白さをより深 めているのは、ファンであれば当然感じてい たはずだ。高田は当時『UWFインターナショ ナル』所属であったが、それ以前は『UWF』、『新 日本プロレス』に所属していた。つまり、ファ ンの中では高田対ヒクソンだけでなく、前田 対ヒクソン、長州対ヒクソン、武藤対ヒクソ ンといった図式を想像し、架空の世界ではあ るけど可能性として語り合った。

結果は残念な事に高田の惨敗に終わったが、 その試合後のメディアの対応に、今の格闘技 ブームの内容の薄さが見え隠れする。メディ アはこぞって高田は嘘つきだと決めつけ、高 田批判を繰り広げた。日々、私のメディアに 対する怒りや不満はつのるばかり。しかし、 高田の先輩前田があるインタビューで言った コメントに、私はメディアに対する不満や怒 りは少し解消した。つまりこうだ。1年以上前 から試合準備に望んだ高田。もし高田を批判 するのであれば、高田を一流の選手として認 めたからこそ試合に望んだヒクソンも批判す ることになる。また、プロだかアマだかわか らん中途半端な連中が、高田は所詮プロレス ラーだから負けたんだと言っているが、だっ たら半プロの奴等がヒクソンを倒せるのか? 答えは100%ノーだ。(当時)ヒクソンを日本 に呼ぶには、諸経費を含めると最低1億はか かったのだ。アンダーカードを考慮すると会場は最低横浜アリーナ・クラス。そこを満員にできる程の力を持っていなければならない。メディア側がそれを考えた上での高田攻撃なのか、ただ単に無知なだけだったのかわからないが、少なくとも出場者、主催者側はそこに試合としての魅力があるから大会を実行したのだ。要するに、試合結果だけを淡白に伝え、試合までの経緯を伝えていないから、仮に試合内容が良くても魅力が半減して報道されている。それを鵜のみにするファンがいるから質が悪い。なぜこの試合が組まれたのか、セコンドに付いてる選手は誰なのか等々、伝えるべき面白さばいくらでもあったはずなのに。

なぜ音楽ファンジンで格闘技やプロレスを 熱く語るのかというと、私がプロレス好きだ からというのも一理あるが、音楽シーンまた は業界にも同じような事があるからなのは いう間でもない。それはメディアによる情報 操作によって、事実と違うことをファンに知 識として植え付け、嘘の情報が後から事実に 擦り寄っていく酷い現実の多さ。レコードや CDのレビュー等はあくまでもライターなり編 集者側の感想に過ぎないにも関わらず、鵜 のみにする読者も多い。ある意味仕方のな いことかもしれないが...。しかし最悪なのは それをわかっていながら、表向きメディアを 鵜呑みにするなと言い、実は企業間の関係 から大したことないバンドをでっち上げるメ ディアも多々あるということ。また、実力あ るバンドが評価されないどころか、紹介すら されていない現実に不満がつのってこのファ ンジンは製作することになった。プロレス同 様語れる面白さも理由のひとつかもしれない。 様々な価値観によって、各メディアごとに意 見や主張があるのは然るべき。本誌は未熟 なファンジンとはいえ、『FAST』なりに速さ にこだわっていきたいと思う。

FAST FOR SPEED FREAKS

昨年スウェーデンのDS-13に続き、オランダのVITAMIN Xがアメリカ・ツアーを決行。メンバー自らその経緯について綴ったレポートが『MAXIMUMROCKNROLL』誌に掲載され(『DOLL』誌No.174に転載)、皆が "Network of Friends"を大切にする熱いハードコア魂を感じ取ったことだろう。また 先頃、そのツアーをサポートしたHavocと Underestimatedより2ndCD/LPをリリース。真のハードコアを体現したサウンドとアティチュードを改めて披露しながら、スピードこそハードコアの必須条件、と言わんばかりのとてつもない速さでリスナーを圧倒し、スピード狂にとっては狂喜する他ならない。

今まで彼等について上記雑誌で絶賛されることは多かったが、VITAMIN Xの詳細について掲載した記事は少なかった。それで今回、改めてVITAMIN XについてギターのMarcにいろいろ語ってもらうことにした。

ちなみに使用している写真は、全てアメ リカ・ツアー時のものです。





Interview Answered By MARC(Guitarplayer)

VITAMIN X FAST | 05

INTERVIEW

--- まず最初にVITAMIN Xのこれまでの経緯を教えて。

Marc: 僕達は1997年の初頭に、オランダのアムステルダムでバンドはスタートした んだ。僕達のアイデアとしては、楽しいながらもポリティカルな要素を取り入れたス トレイトエッジ・ハードコアをやることだったんだ。それで、Commitment Records からリリースされている僕達の最初のレコード2枚は、1980年代風のハードコア・バ ンドにインスピレーションを受けたものだったんだ。でも今は、1980年代風のオリ ジナル・ハードコア・バンクをプレイしているバンドがたくさんいる。僕達はレコード を作って、ライヴでプレイさえできればいいというのがバンドを始める目的ではなくて、 まずは自分達自身が楽しみたかったんだよね。たぶん音楽的にキミはユースクルー だって言うかもしれないけど、ポリティカルなメッセージを持っているんだよ。最初 のI Pは2000年にUnderestimatedからリリースされた『See Thru Their Lies』で、 初期1980年代のハードコアのように、たくさん速い曲をプレイするようになった。 その初期1980年代のハードコアっていうのは、はっきりとした意見があって、みん なが言うところのポリティカルな歌詞を持つスラッシュのことだよ。このスタイルに なったことで、僕達がアメリカに行く計画が実現に向けて一歩近付いたし、世界のい ろんな人達に共感を得たんだと思う。ただ、オランダを含むヨーロッパの一部の人 間からは、批判の声があったけど。そのLPの後は、2001年にHavocが出してくれ たEPと、同じくHavocとUnderestimatedから2ndLP/CDの『Down The Drain』を リリースしたんだ。あとツアーに関していえば、僕達は1999年、2000年、2001年 の3回ヨーロッパツアーをして、2001年と2002年の2回アメリカツアーをしている んだ。今は少しラインナップが変わっていて、ヴォーカルがMarko、ベースがAlex、 ドラムがPaolo、ギターが僕だ。

--- VITAMIN Xというバンド名の由来は?

Marc: このバンドを始めて間もない数カ月は、ほとんどお遊びバンドだったんだ。で、 ちょっとおかしいバンド名にしたかったんだよね。あとはストレイトエッジだってこと も表現したかった。ある日、ある人に僕達のことを「VITAMIN Xはどうだ?」って言っ てきたんだ。僕達みんな「おお、それだよ、それ最高だよ!」ってね。当時はちゃんとし たパンドになると思ってなかったからコレて良かったけど、今はちゃんとバンド名に ついて考えておけば良かったと思う。しかも、いろんな人からバンド名について酷評 されたんだ。お前等はクソだとかとも言われたよ。

---- 変な質問だけど、なぜキミはVITAMIN Xをプレイするの? VITAMIN Xはキミ にとって何をもたらすんだい?

Marc: さっきも言ったように、お遊びバンドで始めたんだけど、僕のベストフレンド で最初のギターを担当していたEricが、ユーゴスラヴィアから来たMarkoのことを話 してきたんだ。彼と一緒にハードコア・バンドをプレイしたいって言ってきて、ドラマ ーが見つかるまで僕にプレイして欲しいって言うんだ。これがまず僕がVITAMIN X でプレイしはじめた理由だよ。MarkoとEricと僕でスタートしたVITAMIN Xだけど、 ドラマーが見つかってから僕はギターに変わったんだ。それからはバンドでプレイす るのも楽しくて、スタジオでのレコーディングも楽しいし、ライヴも楽しい。いろん な場所で、たくさんの人とコミュニケーションをとるのが楽しいんだ。もちろん仕事 があるから、時々だけどね。バンドをやっててもお金にはならないし、バンドを続け ていくにはたくさん出費があるけど、それ以上のものが得られるんだよ!!!

--- キミ達は具体的にどんなバンドにインスピレーションを受けたんだい?

Marc: 最初の質問の時に言ったけど、僕達はストレイトエッジなハードコア・パンク







(左)2年前リリースされたLPで、見聞きジャケット仕様。写真を惜し気もなく使って豪華な印象を与えているでは、使用している写真からボリティカルな雰囲気をじさせている。近年リリースされたハードコア作品の中でも、名盤中の名盤といえる。(右)リリース間もない中でも、名盤中の名盤といえる。(右)リリース間もないです。

にインスピレーションを受けたよ。例えばYOUTH OF TODAY、GORILLA BISCUITS、SIDE BY SIDE、HALF OFF、NO FOR AN ANSWER、UNIFORM CHOICEとかの80年代のハードコア・バンドだね。最初の2枚のEPを出した後は、速い曲をブレイし始めたんだけど、その頃からBLACK FLAG、HERESY、CRUCIFIX、VOID、INFEST、ILL REPUTE、昔の日本のハードコア、昔のフィンランドのバンド等々を聴いていたね。Markoの場合はバンクとハードコアだけだけど、僕達はジャズやBLACK SABBATHといった70年代のハードロックとか、いろんな音楽に影響を受けているね。

--- ところで、なんでキミはストレイトエッジという生活スタイルを選んだの?

Marc: 僕がストレイトエッジになったのは凄く個人的なことなんだ。そして、lan MackaveとMINOR THREATの言葉を聞くまでは、ストレイトエッジではなかった。 もともとアルコール類やタバコの味が好きじゃなかったから、飲酒もしないしタバコ を吸ったりもしなかったんだけど、ある時、バンクスに「お前はストレイト・エッジだ」 って言われたんだ。どうして僕がストレイトエッジなのか、ストレイトエッジとは何な のか彼に尋ねたときから、僕は世間でいうストレイトエッジになったんだ。つまり、そ ういう生活スタイルがあるということをストレイトエッジのムーブメントから得たん だよね。VITAMIN Xはそういう理由でストレイトエッジ・バンドなんだ。もちろんメン バー全員ストレイトエッジだよ。だけど、僕達はストレイトエッジかどうかってことは 重要ではなくて、生き方としてのストレイトエッジかどうか、それが重要なんだ。もつ と飢餓、人種差別、ファシズム、性差別とかを考えるべきなんだ。僕はまたストレイ トエッジについて言いたくなってきたよ(笑)。...ストレイトエッジは、多くの人が 1980年か81年の地下シーンで起こった、ハードコア・パンク・ムーブメント時に始ま って、その前向きな姿勢を持っているということも忘れてしまていると思うんだ。極 端な観念、マッチョ・アティチュード、メタリック且つ重厚なサウンド、非現実的で意 味のない歌詞...、これらはストレイトエッジには必要ない。僕達VITAMIN Xは、アンチ・ レイシスト、アンチ・セクシスト、アンチ・ホモフォビア達をリスペクトしているよ。

--- 現在のハードコア·シーンについてはどう思う?

Marc: 凄く良い感じだと思うけどね。アメリカ、日本、東南アジアとか世界中から新しいバンド、レーベル、ファンジンがたくさん出てくるしね。ポリティカルで凄く良い歌詞やメッセージを持ったバンドが世界中に存在している。いくつかグレイトなバンド名を挙げるとAMDI PETERSENS ARME、BETERCORE、OLHO DE GATO、HOLIER THAN THOU、TEAR IT UP、ETA、DS-13、TOTAL FURY、DISCARGE、

08 FAST VITAMIN X



W.H.N? KNIEE FIGHT MAD RATS, SCHOLASTIC DETH. SHOT GUN. SIGK TERROR 9 SHOCKS TERROR LAST IN LINE JELLYROLL ROCKHEADS. TO TIME LEFT THE PROWLEDIA, 美自身詳しく知っないけど、はままたくさんグ レイトなハントル、るたろうね。

一 オランダはどう7

Marc オランダにも常に良いハントかいるよ BGK LARM、THE EX FUNERAL ORATION、MANLIFTING BANNER、SEEIN REDのような、誰でも知っているハントか ホランダにはいる。90年代中頃までシーンは死んでいたんだけど、1996年から97年頃からVITAMIN X、OIL REACHING FORWARD BETERCORE、POINT OF FEWといった新しい DIYハートコア ハントや、Commitment、Wasted Youth Power Reflections、Coalitionといったレーベル、そして新しいファンジンやライヴ会場が出てさて、『びシーンに活気が出てんた。Royal Blood Recordsからコンピレーションをモリースされているから、フンダカハートコアはよっとチェノクすべきかもね。SEEIN RED、BETERCORE、VITAMIN X、ALL TENSED UP REACHING FORWARD、MIHOEN、SHIKARIとか25のハートコア ハントが収録されている。レイアウトも最高にグレイトルは中間

— HOLDING DNにも同じような質問をしたんだけど、VictoryやRevelationからリリースって可能性はなかったの?

Marc 彼等はたぶんVITAMIN Xを好きたろっね。たからもこの言っていることは正しいと思うよ。間違っていない。でも、彼等は気に入ってくれるかもしれないけど、僕らか彼等のことを好きしゃないからは、初期のRevelation Recordsがリリースしたレコートは凄く良いけどね。僕達は誠実で、ナシティヴで、プリエイティブなDIY/ハントなんた。凄く直段の高いレコートを売ったり、音楽とかるコントロールされたくないから、メンセーヤコマ、ンセルなレーベルから出したくないんた。3回ヨーロッパ・ソナーとアメリカ・ツァーで、100%DIYで物事を含めることが出来た。もろん、たくさんの素晴らしい人の助けがあってのことだ。DIXシーンにいる人のネントワークは強固なんだよ。つまりメンセーレーベルと契約しても、お金を構えるってことしかメリットがないんだ。この音楽はキリズのためのものであって、ジネスマンのためのものしゃない、誠実にクリエイティブにハントを続けていくには、メンセーレーベルやビッグ、エジネスに関わらずに、独立してやっていくことなんだ。そっやって金を稼いたりするのは好きしゃない、大会社なんてクソくらえた「会社というのは金と利益しからえていない。ましんている人達のことなんが、奴らは何も考えをゃいないんだ。

--- 今回、なぜHavocからリリースすることになったの?

Marc 僕達はもともとHavoc Recordsの太ファンだったんだ。たくさんグレイトなレコードをリリースしているかられ、あとGODE 13も好きたったから、Felix Havocのところから出すことにしたんだよ。まはGODE 13がアムステルダムでプレイしたとき、妻く速くてスラッシュな僕らの曲を気に入ってくれて、トレイトエッツであるFelix と使らのバンドロンンカーであるMarkoが話をしたんだ。1 ーモアのある政治的、自つ社会批判をした戦詞も気に入ってくれてね。それでUnderestimated Records はハードコア ニーンをオーガナイズしているFelixに、リーズしてもらうことになったんた。ほよ1回目のアメリカ・ツアーを企画してくれて、プァンを用意してくれたり、いろいろ準備してくれたかた。

- そのアメリカツアーについて ちょっと話してくれるかな?

Marc 今までに僕達は2回示×リテーファースしたんだ。1回目は2001年に もっし 回は2002年に、最初のシアーは Underestimated RecordsのAntonic「Chicago Fest 20011でプレイしないかって言われたんた。でも行くには費用がカルるから とっ世行くなら、もっとショウをわけたいって思っていたんで、Antonにキーストコー スト・ソアーを企画してくれる人はいないかって、聞いてみたんだ。ちょうと僕らの 新しい7'EPをリリースすることになっていた Felix Havocがそのばを聞いて、すぐ に彼は自分のリポンマ ツァーし いろんな意見をくれて 手伝ってくれることにじっ たんだ。あと、関連の決好さなHavocからリリースしたでEPのアートワークを担当 してくれたUFE'S HALTのErmieも、いろいろと手伝ってくれたんだ。 スト リアーを手伝ってくれたんだけど メールでのやり取りでウエストコースト ツ - も トチル ことやってくれた。2回目のアメリカ リアーの時は、45日間46回のシ



ョウをやったんだよ。同じくAnton、Felix、Emieが手伝ってくれて、メキシコでも) 向ショウをやった。2回とも素晴らしい時間を過ごしたと思うし、たくさんナイスな 人と出会えたし、そしてフールなパンドとたくさんプレイできたし、上げかくグレイド なソアーたったね。しかもアメリカのキッスは凄く熱狂的で、毎回メチャメチャ盛り 上かったんた。アメリカのDIYバンタ・レーンの凄さを思い知うされたね。アメリカや 日本、ヨーロッパのたくさんの外国のバントのプレイを観ることもできたし、これは ほんとに凄い経験になったより、そしてお金もあまりかからなかかったので、少しだ けど利益もあったから、僕達の次のレコーディング化しまわした人た。

一・そういったツアー時とか、言葉や文化の違いを感じたことつてある?

Marc いや 僕達はたくさん英語を喋れるわけじゃないけど それはないね。オラン タは日一日の八の中では変わっているのかもしれないけど、みんな学校で英語を学 ぶんた、プレビでする映画は全で英語なんたよ。 かっしまくはないけど あんな英 語が喋れるし、多くの人が数書語り話せるんたよ。美もオランダ語、英語、トイン語 あとはんの少しフランス語を話せるんだ。こからカルチャーンヨックを受けたことこ てないね。アメリカツアーに行った時もいろんなことがあったけど、一回ツハと同 しだったし、少しくらいの違いはあるよ、例えば建造物。まきな街にあてはまること なんだほどたくさん高層ビルがある。欠は食べ物。ヨーロッパに比べるとファースト フートか多いよね。欠け社会問題だけと、アメリカの多くの人がとても貧しい感じか する。 いっのは、西ヨーロッハと比べると社会保障制度が酷すぎるね。 ユーロッハ の場合、みんな健康保険を持っているんたけど、アメリカはそうしゃない。あと一番の違いといえば、アメリカのチョコレートに最悪た!!!

――日本についてはどう思ってる?

Marc 日本はヨーロッパからとても遠い国たけど、いろんなところで日本の影響を 感じるよ。とくさん日本車が走ってるし、テレビ、コンビューター、電化製品、おも ちゃとかヨーロッハ各地で見かける。 ふとアムステルタムでは日本人観光客も多 いね。いちろん、イランタでは小野伸三選手がサッカーをフレイしているよね。彼は 本当に良いプレイヤーたまね!!! 日本のハートコア・バンク・ション ここいでは、ヨー ロッパ各地で知られているんじゃないかな、誰もが知っているのは 80年代の GAUZEやS O.B. STALIN. EXECUTEとかね。でき合む良いハンドはいるよね。例 ZETOAL FURY, GRUCIAL SECTION, FUCK ON THE BEACH, SHOTGUN. LIE ASSFORT NO SIDE JELLYROLL ROCKHEADS EXCLAIM FLASH GORDON EVANCE GAIAとかね。その中で2002年5月には、アメリカでTOTAL FURYと2回一緒にフレイしたよ。更ばらしい時間を過ごせたし、彼等とは一緒にサ フカーしで遊んだりしたんだ。彼等けみんなナイスガイで演奏も良かったね。将来、 たぐさんの日本の人達の前でフレイできることを願ってるよ。※一ルもらって みん なVITAMIN Xに興味を持ってくれているというのも感じている。こから将来日本に 行って、ツアーをしたいよ。そして、日本のレーベルがらレコードを出せるよっ。な れるといいよね。

――ハートコアを願いて、それに基づいた生活をすることって、どういうことだと思ってる?

Marc まず、ハートコアは聴いた人に何かを考えさせる。いちろん音楽は、音そのものも重要だけと、ハートコアは音楽以上に大切なものかあるんだ。それは自由であり、フラストレーションを爆発させること。そしてハートコアを聴いたり、プレイしたりするのは凄く楽しい。『も僕にとってのハートコアっていっのは、パリティカルな姿勢を持っているものたと思う。弾圧、貧困、レインスと、性差別といったことに対して戦っことでもあるんだ。最や映像で表現して発表したり、政治的活動をしたりといろんな手段があると思う。

― 今後の予定とかは?

Marc てれから。僕達はショウでプレイして、レコートを作って素晴ら」、時を過ごすと思っよ。あと今後のリリース予定を、まず、1997年から99年までのDiscography CDを2003年。Underestimatedからリリース予定、Lengua Armadaのコンピレーション「Hysteria vol 21に参加予定。625からNO 「IME」EFTとのsplit EP 僕らのライヴ・トラックを4曲収録したBLIND SOCIETYとプロモーション用スプリットを予定してるよ。 アーヒいては、2003年3月に南米ツアー、2003年末頃には東南アジアと日本ツアーをしたいと思っている。

では最後に一言。

Marc インタビューをしてくれてありがとう(僕達は日本に行って、日本のハートコアバンク・ケーンにいるファンに会いたいは、速い曲をプレイしてクリエイティウな事をして、コミュニケーションをとりたいよね。DIYを続けてハードコアで居続けようとこかで会えることを願っているよ。それはもしかしたら、日本ソアーの時かもしれないけどね、僕達に連絡を取りたかったらwitaminxx@yahoo.comにメールを送ってくれ。



CRUCIAL HARDCORE FROM MINNESOTA

INTERVIEW

ーバンド名の由来は?

オリジナル・シンガーのDerekが、『Chung King』LPに収録されなかった曲のタイト ルからとったんだ。基本的に若さであったり、好きなものをずっと信じていくってこ となんだ。

一現在までの経緯を触えて下さい。

Derek(ヴォーカル)、Pete(ギター)、Andy(ベース)、Karl(ドラム)というラインナッ プで1999年にスタートしたんだ。僕達はデモテープを製作し、そしてREAL ENEMYとのスプリット7"EP、コンピレーション用にレコーディングしたんだ。だけ どその年にDerekが辞めてしまったので、代わりにAndyがヴォーカルをとることに なって、Mikeが加入してベースをプレイしてくれることになったんだ。このラインナ ップで2000年にセルフタイトルの7"EPをリリースしてんだけど、2001年の最初に 今度はMikeが辞めてしまった。そこでSeanが加入して、『Just Another Day』LPを このラインナップでレコーディングしたんだよ。これが今のメンバーさ

ーその『Just Another Day』LPについてですが、HavocとTHDそして1%からス プリット・リリースってことになっていますが、どうしてですか?

本当はちょうどTHDからLPをリリースすることになっていたんだけど、THD側が Havocと1%にその話をして、スプリット・リリースにしようってことになったんだ。 各レーベルは全く違うタイプだからリスナーも違うし、たくさんの人に聴いてもらえ るんじゃないかってことで、この方法を選んだんだよ。結果的に素晴らしい反応を得 ることができて、僕達にとって本当によかったと思うよ。

その3つのレーベルによるスプリット・リリースですが、個人的にはHavocが最 も興味あるレーベルです。特にHavocがリリースしているバンドとは違うような気 もしたんだけど、どう思いますか? あなた達は、音的にはいわゆるユースクルー系



に近いですから...。

そうだね。僕達は明らかにHavocがリリースしている他のバンドとは違うよね。でも自分達 としてはユールクルーだとかスラッシュだと思っていないし、ファスト・ハードコア・バンドが ピッタリだと思ってるよ。Havocの他のバンドって真正なスラッシャーやクラスティーだけど、 あくまでもHavocはハードコア・レーベルであって、僕達もフィットしていると思ってるよ。

— あなた達の選択は正しかったと思います。 でもVictoryやRevelationとかのレーベルも あなた達のことに対して興味示すんじゃないですか?

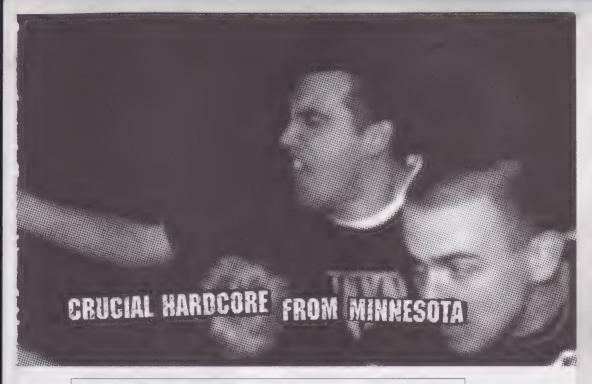
彼らからオファーはなかったけど、もしレコードを出さないかって言われても僕達はあのよ うなレーベルからリリースしたくないね! 今リリースしている全てのレコードがメタルコアや エモばっかりなのに、もし僕達にオファーしてきたら彼らを疑うよ。

---ところで『Just another day』LPで[I'm a dick]って曲をカヴァーしていますが、オリ ジナルの曲をプレイしているOSWALD ARMAGEDONって誰ですか?

彼らは2、3年前まで活動していたパンク・バンドで、基本的にはほとんどがカヴァー曲だっ たんだ。冗談半分でやっているようなバンドだったね。だから僕達もそんな彼等の笑える曲 をカヴァーするのが凄くクールだと思ったんだよ。

一 現在のハードコア・シーンについてはどう思いますか? また、地元ミネアポリスのシー ンはどうでしょう?

ここのハードコア・シーンは良い感じだよ! でもちょっとイヤだなと思うところもあるけど。と いうのはメタルコアはデカイ存在だけど、ファスト・ハードコアはチャンスを与えられていな いんだ。ここのパンク・シーンは良い状況だから、もし僕達も普段からパンクのギグでプレ イしていたとしたら、凄くいいなって思う。でも僕達がハードコアのギグでプレイしても多く のキッズは観に来ないけど、その状況が良いときもあれば悪いときもあるね。



どんなバンドに影響を受けましたか?

僕達はいろんなタイプのハードコアとバンクに影響を受けたね。確実にMINOR THREAT、NEGATIVE APPROACH、SSD、7SECONDS等の80年代ハードコアに影響を受けているね。あとSICK OF IT ALL、CRO-MAGS、AGNOSTIC FRONTのようなニューヨーク・ハードコアだね。ユースクルー・ハードコアにも影響受けているよ。GORILLA BISCUITS、JUDGE、YOUTH OF TODAYとかね。僕らはそれらをそのままやるんじゃなくて、バランスよくそれぞれを取り入れていると思う。RAMONESやCLASH、STIFF LITTLE FINGERS、BLITZみたいなクラシック・バンクも、もちろん影響受けたよ。今いる多くのハードコア・バンドよりも、僕達はバンクに影響受けているってことだね。

---普段はどんなバンドと一緒にライヴをやってるの?

友達であるTEAR IT UPとKILL YOUR IDOLSとはたくさんプレイしたね。今年の夏はTEAR IT UPとショート・ツアーをする予定でいるよ。KILL YOUR IDOLSとは夏の半分くらい週末 にプレイする。冬にはニューヨークのTHE CONTROLとツアー予定。みんないい奴ばかりだよ。 あとDILLINGER FOUR、SEASON OF FIRE、MARTYR AD、RIVETHEAD、MILES AHEAD とかの地元のバンドとも一緒にやってるよ。ミネアポリスの他のファスト・ハードコアだけじゃなく、パンクやメタルコア・バンドともやってるけど、いいバンドも悪いバンドもいるね。

--- 日本についてはどう思ってる?

とにかく凄いよね。グレイトなバンドとシーンがあるって聞いている。TOTAL FURYとは最近 一緒にプレイしたけど、彼は最高だったよ。近いうちに日本でプレイできることを願っているよ。

――最後に今後のプランを。

Martyrからsplit7"EPを出す予定だよ。今はそれくらいかな。Bridge Nineから早くて年末リリース予定のLPのレコーディングを今年の夏にするよ。

--- 初歩的な質問で申しわけありませんが、バンド 名の中来を教えてください。

磯部:元々、自分と中野(Dr)で始めたバンドが、何かリリースするたびにバンド名を変えるという決め事で始めたけど、二人の性格上一回の変名で挫折し、このバンド名になった。意味は自分の当時のフェヴァリットアーティストのAPOCALYPSEというバンド名をあえて皮肉ったバンド名にしました。ちなみに、活動始動時はCUNT DECIDEというバンド名でした。

――影響を受けたバンドは? またどういったところ が魅力だったのですか?

磯部:THE STALIN。当時にしかない緊迫感が魅力でした。

中野: THE STALIN。非日常だった...。

青木: SENSELESS APOCALYPSEです。ヴォーカルとドラムだよねー!

―― 現在までのバンドの経緯を教えて下さい。ここ数年、メンバーが入れ代わってますが…。

磯部:バンド経歴はHPでどうぞ(笑)。

中野:センスレスとは、磯部である!

磯部:いや、中野である!

中野:いや、磯部である!

磯部:いや、中野だよ!

(延々...)

--- ヴォーカルが一人になって音楽的に変化はあり ますか?

中野:曲を作る立場からは無いが、バンド全体のサウンドはソリッドになって嬉しー!

青木:シェイプアップされて嬉しー!

磯部:無駄な■がしさが無くなって嬉しー!

――よく東京でライヴを行なってますが、地元静岡 でライヴすることってありますか? また地元のシー ンはどんな感じなのですか?

磯部:SAME ATTITUDEという企画を地元で不定期 にやっています。海外のツアーバンドなんかの地元 でのサポートもしています。地元シーンはどうなんで しょうか? 色々なバンドが一緒にライブしています。

— SENSELESS APOCALYPSEが活動しはじめ た頃から90年代までと、現在とでは大きくシーンが 変わったように思うのですがどう思いますか?

磯部:変わっていないんじゃない?

中野:コネとか人間関係のみでつながってるシーンになっちゃったりしてたりしたらヤダなー!

― 流行とはかけ離れた音楽とはいえ、数年前に地下シーンで盛り上がったパワーヴァイオレンス/グラインドコアの人気はだいぶ落ち着いて、バンド数も一時よりだいぶ減ったように感じるのですが、どうでしょう?

磯部:いや、流行りだったんじゃないですか? 残る者



グラインドコア、ハードコア、クラストコアと様々な顔を覗かせ、 静岡を拠点に活動しながら世界に目を向けているSENSELESS APOCALYPSE。いずれの音楽スタイルも彼等の場合は当ては まるのだが、私的にはやはりグラインドコアのイメージが強い。 こう言ってしまうと先入観を与えてしまうけど、彼等のライヴ を観ていると理想的なグラインドコアのライヴを展開している のだ。私の知る限り、日本において彼等のようなスタイルのグ ラインドコアはいないし、いたとしても音のみ再現しているだ けであって、ライヴで表現しきれていないバンドが多い。また、

は残る。消える者は消える。どうでしょう?

中野:盛り上がってる事も知らなかったし、落ち着いてる事も知らなかったし、バンドも減ってる事も知らなかったし、バンドも減ってる事も知らなかった。ダメじゃん、俺...。

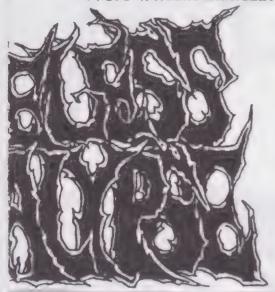
青木: パワーヴァイオレンス/グラインドコアとかカテゴライズするから盛り上がったりバンド数も増えたり減ったりするのだびょ~ん。

――SENSELESS APOCALYPSEはグラインドコア だったり、ハードコアだったり、自由自在に音楽的に 変化しても違和感を感じません。ですが、ここまで速

さにこだわったストレートなバンドって今あまりいま せんよね? 自分達の音楽について、どう考えていま すか?

中野:元々センスレスは初めからハードコアバンドです。 特にグラインドコアとか意識した事はありません。速 さについてもこだわっていません。早く遅くなりたい! 磯部:いや、俺は速さにこだわってるよ!

バンドをやる一方で、Blurred Recordsを運営し



今のグラインドコアはPHOBIAのようなタイプやRelapse所属 のグラインドコア・タイプが主流で、良い意味で本気で狂ったグ ラインドコア、例えばAxCxのようなタイプは極まれな存在とは いえ、少なくとも私としてはこのセンスレスは、後者タイプの 要素を多分に含んでいると思う。そこに希少性を感じるし、何 よりもライヴがカッコ良いのだ。

現在、活動停止中のセンスレス。9月頃には復活を予定して いるので、この充電期間に溜めたエネルギーをその復活ライヴ で爆発させて、またスピード・フリークスを魅了してほしい。

ていますが、自分にとってバンドをやるのとレーベル を運営するのとでは、どのような気持ちの違いがあ るのでしょうか?

磯部: 気持ちの違いというか、レーベルは個人でやっ ていますから、バンドに対する気持ちとかとは全く違 いますね。ただ、センスレスで対バンしたバンドを気 に入って、じゃあBlurredからリリースをって事もあ るんで、つながりはありますね。あと、バンドでプレ イしている時に、「社長!」って呼ばれる事は大嫌いです!

- レコードをリリースするバンドの選考基準は?

磯部:知名章とか抜きに自分の日で観て 耳で聴いて かっこいいバンドですね。海外のバンドは観る事は出 来ませんが、国内ならライブを観てから決めます。精 力的に活動しているバンドをサポートして行きたいで すわ。でも精力的に売り込んでくるバンドは大嫌い(笑)。

- 各レコードにつき平均1000枚くらいリリースレ ていますが、バンドのギャラはどのようにしているの ですか?

磯部:ギャラはプレスした枚数の20%を現物で渡し ています。いつかレコーディング代も出せるようなレ ーベルになりたいです(笑)。

- 第一頭のSENSELESS APOCALYPSE以外は 全て7"FPでリリースしていますが、何かこだわりは あるのですが? 例えばDIYハードコアはこうあるべきだ、 とか…。

磯部:全くこだわりはないです。今度からCDもリリー スしますし、今までCDをリリースするチャンスが無 かったってだけです。まあ7"EPとか好きでしたし、ア ナログ世代だからかな?(笑)

- 今までで一番評判の良かったレコードは? また 今後のリリース予定は?

磯部:特に評判の良かったのはV.A.-MEANINGFUL CONSOLIDATION 7"x2, NICEVIEW 7"かな。一部の マニアの間で評判が良かったのはANARCHUS 7"と GRUDGE 7"です(笑)。個人的に気に入ってるのは RUSTLER / SWINDLE BITCH スプリット7"です! 今後のリリースは、神奈川のSU19B 7"とニューヨ ークのTHEY LIVE 7"がもうすぐリリースされます。 その後は名古屋のOUT OF TOUCHの2nd 7"/CDで、 その後に地元のDEVOIDっていうジャパコアのバンド のCDをリリース予定です。詳しくはHPで(笑)。

- 今後の活動予定を教えて下さい。

磯部:センスレスは現在無期限活動停止中! 9月復 帰予定! 今度Relapse Recordsからリリースされ るコンピCDに参加してますので、もし良かったら聴 いてみて下さい! インタビューありがとうございま した!

T421-3213

静岡県庵原郡蒲原町中482-1 磯部 学

tel 0543-85-3217

e-mail manabu@blurred.tv web address http://blurred.tv

482-1 Naka, Kambara, Ihara, Shizuoka 421-3213 Japan

e-mail manabu@blurred.tv Blurred hp http://blurred.tv



EAST KRIGSHOT



昨年『Extreme The Dojo』でNASUMが来日。彼等の活動スタンスは明らかにアンダーグラウンド・レベルとはいえ、Relapseから2枚のアルバムをリリースしているゆえにメタル・グラインドコアのイメージが強くなった感があった。しかし、メンバー3人の後ろに掲げられたライヴ時のNASUMの垂れ幕は明らかにヘヴィ・メタリックではないし、クラスト色が濃かったのが印象的で、それを見た私はなぜかホッとしたのを記憶している。もっとも、その時の対バンと比較すればNASUMもクラストなのかもしれないが、やはり私自身とこか彼等に対してアンダーグラウンドなイメージを持ってライヴに望んだからそう思ったのかもしれない。

そのアンダーグラウンドなイメージ、それはNASUMにもあることだが、各メンバーが他で動かしているバンドにはより強い地下臭が漂うからNASUMに対しても期待してしまうのだろう。中でもAndersとMieszkoが在籍しているKRIGSHOTに関しては、ライヴ活動が他に比べ少なく情報が少ないために、サウンド、メッセージ、そしてアートワークに至るまでどこか神秘的な印象を与えている。しかしKRIGSHOTが吐き出すサウンドからは、MOB 47等を優越したスウェディッシュ・ハートコアの理想系を突き詰めているから無視できないし、むしろ皆素直にKRIGSHOTに本腰入れてくれと思っているはずた。

そこで今回はあえてそのKRIGSHOTにスポットを当て、 メンバーから見たKRIGSHOTの位置付けを聞いてみた。

Jallo 音、MOB 47は Krigshot という曲があったんだけど、奄達はそこから頂戴した んた 英語に訳する Threat なんたけど、良い名前だろ? ずっと世界は戦争の脅威にさらされている、という意味を込めているんた。

― なるほど。では今までのKRIGSHOTの活動経緯を教えて下さい。

Jallo 俺はいくつか曲を作ってストックしていたんだけど、当時俺がやっていたいくつかのハントにはフィットしなかったんた。で、こまっとNASUMでプレイして、たAndersとMieszkoにこの話をしたら、彼等は一緒にやらないかって言ってくれた。そしてアメリカのSound Pollutionから Istをはすことになったんだ。と記憶している。その時のラインナップはギター/ペースが俺、ドラムスかAnders、「オーカルがMieszko。で俺達し2枚の7、FPと2枚の1. Pを全てSound Pollutionからリリースしているただ。

Jailo そったね、いんな上手いこと他のハントでプレイしているよれ、KRIGSHOTとして レコーティング・セッションするたけたから、ままで大きな問題が起きたことはないよ。ショウがダブル・ブッドングすることはないから、全く問題ないな

■ はぜCDやレコードをSound Pollutionからリリースしているんですか?

Jallo 中国に促達はSound Pollutionが好きたし、「つのレードルから出せれば十分たと思ったた。Sound Pollutionを運営しているKenが、検達の音源を気に入ってくれているし 完璧な仕事をしてくれている。こから全く問題ないんたよね、Sound Pollutionは検達のレーベルのようなものだれば、Kenさえ身はれば今後もたくさん リリースするつもりだよ。

― 他に良いレーベルはないの?

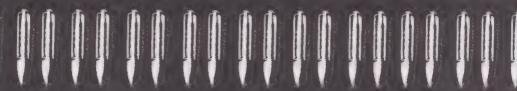
Jallo: したろんたくさん良いレーベルはあるけど、角達にとって良い状況ではないんた。

一 さて、KRIGSHOTをプレイしていてどうですか?

Jallo Live 《RIGSHOTは今まで大してヨイヴをせっていないれた。でし来年には何度 かヨイヴをやる予定ではいるけどれ、それで日本やアメリカに行けたら面白いたろうね。

--- 今までどんなバントに触発されましたか?

Jalio 今でも聴いているたたけと MOB 47、RIISTETYT DISCHARGE、SVART PARAD、 CRUDITYといった初期フェンランド 初期オギリス、そして初期スウェードンのハートコ アを聴いている。でも、俺は自分達独自の音を出すたけて、それらのコピーハンドけやら



ないよ。

― 現在のハードコア・ションについてはどう思いますか?

Jallo 般的には良いとされているのだろうけど 軟弱な感じかするね。これ しいか すると それはそれで悪くないのかもしれない ボジティヴな捉え方をすると どんな ハントでも売れる状況たといえるしる。

--- スウェーデンのシーンは?

Jalio スウェーテッのシーンはたくさんパンタ / シトが出てきて、良い状況たといえるね。 しかもどのパントもクオリティが高いし、良い感じたよ。でもログ バンタ ッーンのごこ 10年から15年くらいは、低迷していると思うね、いちろん今でも良いハントけいるんだ。 DISFEAR、SKITSYSTEM: NASUMとかね。

-- 言葉や文化の違いで苦労したことはありませんか?

Jallo はは(笑) キーが言いた。ことが**わかっな**() (爆笑) **他は言葉の違い** や文化の違いで困ったことは、今まで味わったことがないかられ、

── というのは、最新作で歌詞やタイトルは母国語で歌ってますよね? でも英語もあるし...。

Jallo スワエーデン語の歌詞の方が自然だい、簡単なんたよ。 ウエーデン語は俺達の 速い曲に はんとドビッタッ合うと思うんたよ。 ウェーデン以外の人にも俺達が叫ん でいるのは分かろと思うんだよれ

-- ところで、日本についてどういう感想をお持ちですか。

Jallo 今まで行ったことはないけど、「シドをやっている友達が何人かいるよ。行ってみたいよね!!! BASTARDS CFDL DISCLOSEとか良いバンドがたくさんいるし、あと日本のレーベルとは何年もレコードのトレードをしている人た。日本人はとてもナイヌで礼儀正しいって聞いてるよ

今後の予定を。

Jallo 今は丼に何かまる。こわけしゃないんだけと、来年には新しい7"EPとかでリリースする予定の曲をレコーディングするかもしれない。まのとこる何回かショウも決まっているし、将来的には日本にも行きたいよ

-- では最後に、ハートコア・マイントとは?

Jallo 風には言まっとれからないけた。他人を苦しめることでく、自分自身を大切に生きること。



バンド名の由来を教えてください。

大武:長くて読みにくいものがイヤだったので、つけました。特に意味は無いです。

-- 影響を受けたバンド、またどういったところが魅力だったのですか?

大武:私自身は80年代スラッシュメタル、初期グラインドコア、デスメタル、ジャパ コアなんかに影響を受けました。とにかく速いのが好きです。他のメンバーも同じ感 したと思います。

一根在までのバンドの経緯を教えて下さい。

大武:2000年に1本目のデモを、翌年に2本目のデモと7"FPを、今年は今のところ 3つのコンピレーションに参加しています。

- 普段はどういったバンドとライヴ活動をしているのですか?

屍体ジャケットからゴアグラインドを連想してしまった2ndデモテープに続き

あのBad People Recordsより1st7"EPをリリースした字都宮のグラインドコア・バンドGATE。 そのEPのファースト・インバクトもやはリゴアクラインド寄りのイメージが強いが、

それはあくまでもジャケットからの印象。

中身は従来の枠に捕われない前向きな音楽で、

日本でも有数なDISCORDANCE AXISを彷彿させるグラインドコアである。

そしてあくまでもクラインドコアを崩さずに、

そのスタイルを突き詰めるというパンドは希少である。

地元に限らず、

東京または全国区で活動してほしい期待の3人編成パンドで

今回はキター&ヴォーカルの大武氏(以下敬称略)に話を聞いてみた。

大武:いろいろですね。でもあまりライブをやらないので声をかけてもらえれば出る って感じですね。メタル系、コア系どちらともやってます。

一地元のシーンいついて教えて下さい。

大武: 宇都宮はPLUTONIUMを筆頭にクラスト系のSCREEN OUT、DESTRUCTION、 CONTRADICTIONやファスト系のBIGGER THAN YOUや、パンク系のWASTED LIFEなどががんばっています。メタル系だとORANGEがダントツですね。

- Bad People Recordsからリリースすることになった経緯は? リリース後のリ アクションはありましたか?また満足していますか?

大武:Bad Peopleからはたまたまです。私がCATHETERっていうバンドにファンレ ターと一緒にデモテを送ったんですよ。そしたらそこのドラムのHaroldoがBad Peopleをやってて、GATEのデモを気に入ってもらってそれからですね、リリースが 決まったのは。反応はあまりないですね(笑)。満足はしてますけど、やはりあまり急 いで作るのは良く無いですね。ところでCATHFTFRは要チェックですね。すごくかっ こいいですよ! そろそろSix Weeksからニューアルバムが出ますよ。

ジャケットは何の写真なのですか?

大武: 明治か大正時代の猟奇殺人事件の現場の写真です。何となく使いました。

――歌詞が掲載されていませんでしたが、どのような事を歌っているのですか? 何か伝えたい事はありますか?

大武: 個人的なことを歌ってます。自分が思ったこと、感じたこと、実際に体験したことを自分自身に言っているって感じです。 あまりメッセージ件は無いですね。

――グラインドコアに限ったことではありませんが、アンダーグラウンド・レベルで活動しているバンド(例えばAVULSION)と、一般的に知名度のあるバンド(例えばSOILENT GREEN)はファン層を含めて分離してしまっている気がします。その辺の違いについてはどう思いますか?

大武: あまり感心が無いですね。っていうかよくわかりません。

―― 更にここ数年、Relapse等の大型レーベルから数多くのグラインドコア・バンド がリリースされています。しかしその動きに反比例するかのごとく、アンダーグラウ





(上)見るからにゴア・グラインド炸裂でインパクト大の2ndデモ。良くも悪くもこのジャケットから先入観を与えてしまっているのは否定できないが、内容はというと極上のグラインドコアである。(左)今年Bad Peopleよりリリースされた1stEP。上記デモと同じ曲をいくつか収録している。

ンド・シーンではゴア・グラインドが主流になっていますが、どう思いますか? 大武:別にいいんじゃないんですかね。うるさくて速い音楽が増えれば楽しいじゃないですか。

――個人的な意見ですが、ゴア・グラインドは嫌いではありませんが、一時期のメロコア並に粗製濫造が目立っている気もします。どう思いますか? しかもその多くがスタジオ・バンドのケースが多いですよね。

大武: あまりお金がないので、いろいろ聞けないのであまりわからないのですが、有名なバンドの誰かと誰かがプロジェクトをやり始めた、みたいなヤツの方がどうかと思いますね。

一一今後の活動予定を教えて下さい。

大武:ライブは今度LITTLE BASTARDS、ZONE DEFECTION、突撃戦車と対決する予定です。音源の方はNuclear BBQ Party Recordsの7"コンピ、ShitwormのUNHOLY GRAVEトリビュートといくつかのコンピレーションに参加予定です。SPLIT 7"、CDも予定しています。あとヴォーカルを募集しています。DISCORDANCE AXIS みたいな声出る人、お願いします。

GATE

Toshinori Otake/大武俊則 3779-59 Kaminokawa Kaminokawamachi, Kawachigun Tochiqi 3290611 Japan UTH RICT STOMY

HITAGANISS!

DEVIL WORSHIPERS FROM L.A...

REAGAN SSというバンド名を『MAXIMUMROCKNROLL』で見つけた時、なんてバンクなバンド名なんだ!!!と思った。私的にはこのバンクな発想に 興味津々。日本的に言えば"アンチ小泉首相"だとか"アンチ中曽根首相"といったバンド名をつけて活動しているのと同じじゃないだろうか。まず日本だと表立って活動するのは難しい名前た。

REAGAN SSの歌詞は案外ボリティカルではないとはいえ、アートワークも"レーガン元大統領"にこだわり、私的には"バンク"でとにかくカッコ良いのた。そんな最高にクール且つバンクな彼等にいろいろ聞いてみた。

INTERVIEW

- REAGAN SSの簡単な歴史を教えてください。

Danny S.S. 結成して1年以上総ったかな、Mattle俺ですっとやっているんだけど、メタート時はトラマーと"猿顔"の友達と始めたれた(笑)、今はJohnがトラムを担当している。 いか、なかイイをした。

- REAGAN SSというバント名でトラブルに巻き込まれたりしない? 日本だと首相の名前をつけるのは、いろんな意味で危なくてできないと思うんだ。

Danny S.S. 今のところないな、。将来に渡ってそのような危険にさっされないように願っているよ。 までのアメリカでは政府に対して批判することは問題なかったけど、9 月 1日以来「示ロリズムとの」い」という名のもと、自由が導われた気がするんだ。

── そういう意味でREAGAN SSってボリティカルな印象を与えていますが、REAGAN SSの歌詞はポリティカルじゃないよね?

Danny S.S. たしかに俺達の曲から、あまツボリティカルなメッセーンを見じられないたろうれ、というのは俺達は所謂、リティカル バントじゃないから、ボリティカルな事を歌つバントはたくされいるけど、俺達は彼等か言っポリティカルな事よりも、人生や生活について歌う方かすっとポリティカルだし重要なんだ。普段の生活は、告悩の日々の連続たよ。

──REAGAN SSとして今までリリースしたものを教えてもらえますか?

Danny S.S. Gloom Recordsから、BAとのスプリット量がリリースこれでいて、ヨーロ リバ盤はCoalitionがリリースしているんだ。8月に625から7*EPがリリースされること なってもよ。あとはYouth Attack Recordsのコンピレーション盤に参加する予定になっているんだ。

--- ハードコア・シーンについてはどう思う?

Danny S.S. 今までに世界中のシーンを見できたれげしゃないからわからないはと、ハ - トコア・シーンはも、と個々の力を育でることが大切だと思うれ

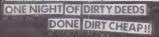
-- LAシーンはどう?

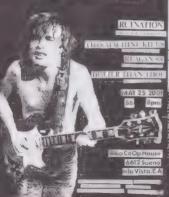
Danny S.S. L.A.のシーンは凄くイイ感したね。将来的にもイイ感じなんしゃないかな と思うよ。たたにAのハードコア シーンは分裂してしまってるんだ。 ハードコアはレコー >や音だけでは判断できない音楽だから、そうやって分裂することは凄く馬鹿げたぐと だと思っけざれ。

とんなバントに触発されましたか?

Danny S.S. 動しい質問だな 。俺達はハートコアと昔のロックシコール バンドをミツ クスした感じなんだ。BLACK FLAGやBLACK SABBATHみたいな。

- 日本についてはどう思ってる?









Danny S.S. 日本にたくさんバントかいて、凄い所たって聞いたよ。アメリカのハートコア シーンはも、と日本は目を向けるべきたね。

- 今後の予定は7

Danny S.S. R年にはリアーをいたいと思っている。日本にも行ってみたいよね。あと LPをリリースできたらいいなど思っているけと、その後は簡重しわからないな。

一最後に、あなたにとってのハートコアと、ハートコアとしての生活を教えて下さい。 Danny S.S. 俺にとってのハートコアは人生であり、生きて行くための手段なんた。毎朝 起きて、そして聞いて、いつも戦いなんたよ。それもハートコアだ。ハートコアは音楽や

GOREBEYOND NECROPSY Analdrillingrind Harshit Core!!!

インタヒュー中にも書いたか、5月に発売した英国の『TERRORIZER』のゴア特集にGORE BEYOND NECROPSYの名がEXHUMED等と共に列ねていた。たしかに過去にリリースした作品の中には屍体写真を用いたものもあるし、GORE BEYOND NECROPSYにはそういう側面もあるにはあるが、それはメンバーが言うようにパシド名から連想しているだけで事実と違う。もつとプリミティヴなロックであり、そんなこじんまりしていない。その真偽を知りたければ、彼等の強烈なライヴを見ればわかるはずた。個性派摘いのGORE BEYOND NECROPSYのメンバー全員にいるいろと答えてもらった。私的には意外な答えが返ってきて面白かったので、読みこたえあるのではと思うけど、やはり彼等はライワに尽きるのだ!!!

Photo by Etc Matsumoto

― 初歩的な質問ですが、バンド名の由来を教えてください。

Akinob(B): 結成当初はハント名は特に無かったよ(1989年頃)、その頃は といかくハチャメチャなグライントハイズをやってたんだけど、いちゃんがしらうちょっとちゃんとしたのをやるうしって言い出して、CARGASSみたいなエグイのをやろうってことになって、CARCASS目指して曲作るようになって、ハント名もCARCASSチックで意味不明な感じかしたので、GORE BEYOND NECROPSYつて付けました。Hironori(Noise)、Akinobとハンドを始めよっ言っていた頃に彼の手紙に「ハント名はGORE BEYOND NECROPSYがいいなーしって書いてあったんだ。それて俺は次の手紙に「それで良いよしって収事を書いたってわける

Kiyonob(G): あの当時は、こにかく血みとうでくちゃくちゃな感じにしたかった。たた動達いされることが多いので名前変えちゃおっかな。トコとクールでセクシーなのにね。

Hayato(Drs): NOISE-A-GO-SO'Sとか、FAECAL NOISE HOLOCAUST なんかいいんじゃない?

一 影響を受けたバンドは? またどういったところが魅力だったのですか?

Mamoru(Vo): GISM. VENOM. REPULSION.

Hayato ゴアビヨンド自体だね。 引りに変な人か多いくて まともな人かいないから すっこく魅力的リーラムに関しては、LIP CREAM、DEATH SIDE、BASTARDといった日本のHardcoreと、ミックハリスリー

Akinob やっぱりNAPALM DEATH、CARCASS SORE THROAT, EXTREME NOISE TERROR DOOMなんかの80年代後期のイギリスのハントがこの影響が一番かな。としかる音が物浸すぎて、窒息しそうなやつに浸く魅力を感じるようではFEAR OF GOD CACOFONIA, REGURGITATIE ARSEDESTROYER, A.C. CONFUSION (1st flexi): VARSOREなんかの猛烈でノインー アプライントコアだね。 とにかく登別でSICKで、Erazyはイン・ファートコア、ノイズコア・ノイズ、バンク・ロップンロール、カレーンなんかにもやられまくつてきょん。

Kiyonob: 本当に名前をあげていったらきりかないけど、プライットコアハートコアとかいイズにはやっぱり音のキョーレッさ 圧倒的なパワー、それからスピード感。とにかくガソーンでくるところ。コッタンロールからは シブルでキャッチ でノリルりなところ。まあ、そんな音楽でも衝動的っていっか こットコールが動かなく暴走している感じて、重要なのはリズムにノリかあるかだね。「リかないとタメ。自然と体かクネタネしちゃうようじゃないとれ、

Hironori:影響を受けたバントはZiggy Stardust and The Spiders From Marsた。 そのすべてか魅力的た

― 現在までのパントの経緯を教えで下さい。

Hironori: 俺はハイスクールの頃オレージって名のバンク バントをやっていた。その後しばらくはバント活動をしていなかったが Akinobと出会ってGORE BEYOND NECROPSYを始めたってわける。

Akinob つと前はハートコア・ハットやってたよ ショート封したのはMORBID ORGANS MUTILATION。ていう・ントで、AGATHOCLESとのsplit 7"EPだったなあ。で、M:O M:はEXTREME NOISE TERROR、DOOM、RIPCORDからビビビッと来た感じのハートコアをやってたんだけど、ようどうしょうもなくグライントコアギリにくなって、清ちゃんとコバちゃんとGBNでり始めたルとよね。最初は平行してやってたんだけど、M.O M.のう:「カルたったハンちゃんが実家(九州)、帰んなきゃならなくなっちゃって、こっちに重点直くようになっても510年以上経っちゃったって



感じたよ

Kiyonob ドラムにハヤトくんが加入したのが、こんなに長く続いている大きな要因だえ、ままで、3本のTAPE、TIVのでPP、れから2枚のアルバムを出したよ。MERZBOWの秋田さんとなったのをいれるとでか12枚に、アルバムが3枚になられ、やっぱり最新作のTFullthrottle Chaos Grind Machinelが、番お気に入りたね! Hayato もともとは地元でハートコアとか、イスコアをさってたんだけど、MASS GENOCIDEでい始めた時にGBNカトラム投してもって聞いて、オレーカいねーたろいりって思って入ったもだよね。こも、のハントにはいってからすべてが狂っちまったよ。

一 普段はとういったバントとライヴ活動をしているのですか? 一緒にやるバンド にこだわりはあったりしますか?

Akinob. ライヴは色んなハントとやってるよ。GRUDGE REALIZED、D.H.E. 肉奴隷 SENSELESS APOGALYPSE、DIE YOU BASTARD、CSSOなんかとやるのはすっ てく楽しいけど、カラごいいハンドとたったらジャンルを問わずオッケー牧場!!! く たらなーGock Rockカス野郎共とは、つりたくないけどれ

Kiyonob しびれ ちょうな ハットと一緒にとうれしいれ。

Hayato そうだね! とっこい ハンドとガンガンやってきたいねー。

--- 基本的に東京で活動していますが、地元神奈川のシーンはどうなのでしょう?

Kiyonob: 地元ドレーンなんでないよ、地元でライヴやったことないし、

Hayato: 暴走族はつかり」 あとはフッパー 唱され 「ロコア君よて一な」どうしょしないのはつかたよ!!! いっさいいハントやってる奴なんで全然いないんしゃない 1? Hironori: まあり 田利治線にはREALIZEDの平田 ヴーヤン 売金なんかれいるけどシーンなんで呼べるのはないよ。詳しく知りたかったら、 イルドマネーコフスケに続いてみでくれ!!!!

GORE BEYOND NECROPSYは幅広い層に知られていますよね。5月に発売した英国の『TERRORIZER』のゴア特集にも掲載されていたし。パントとしての大きさを感じるときってありますか? 今も海外からオファーはあるのですか?

Mamoru、幅広い層に知られているかどっかはよくらかんねーけど、バンドを知名使なんかの大きさで感じることはねーなり海外オファーアしからん。

Akinob まあ10年以上やってるし、それなり、海外からも音源出してもたけなんだけどね。いっちの大きさってのは、くれからないなあ、ファー、よいつばいあるけど出したいとまっタイシングってあるでしょ? そういうの以外はお削りさせてもらってます。こあずマンスがあればどんどん出して行きたいける。所しい音源には新曲人れたいからオファー全部受けるのは難しいよ。「TERRORIZERJzineによったのは、たた単にRelapseからCD出してたからだと思うよ。「ン」名にGOREって付いてるから削減いしたもとやない「?

Kiyonob えきさなんて全然感じないよ。 イヴやるたびに満員で かわいい子猫ちゃんがキャーキャー 買いながら追いかけて来るなんで ことがあれば少しは耐しるかもしれないけられ



── GORE BEYOND NECROPSYのライヴはいつも楽しいですが、ある意味レコードのジャケットからイメーシするゴアな印象はありませんよね? どうでしょう?

Hironori。コアかどうかが重要なのではない。ロッグンロールかどうかが問題なんだ。 腐乱した外科医が患者を生きたまま解剖するなんで、「サイコーにロックンロール!

Photo by Etu Matsumoto



GORE BEYOND NECROPSY FAST | 1)

なんで思ったものだよ。つまり、ロッタンピールかどうかなんだ。

Mamoru ステーンでゲロはいたり、重まいたり、エインソー振りまわしたり、ど こかの外々レハンドみで一にやちのなんで、キレの趣味しゃね一なあ。いといって季 あけるだけのライブもつまんねーよん! とにかく緊張感があって、でもごりゃ最高 っつって笑っちゃうみたいな感じ。そんなのかいいね! あくまでショウなんだから 観でて面白くねーのなんでやってる方もつまんねーし、ライブやる意味ないんじゃ ねーか!?

Akinob: 別に確達コア・クラインドじゃないしね~。音も、ぬも、音源も、ライタも、 とにかく何でもガッコ良くて、ハチャメチャなのにしたいだけなんだよねー。他の誰 かさん日指してやってるわけじゃない。自分が楽しくないとやってる意味ないから とにかく全部がFullthrottleで爆裂しまっくってるのにしたい!!! まついっのを全部ひ っくろめてGBNなんだよ.

Kivonob: ライヴが楽しいって言われるのは、すごぐうれしいは、 やってる方も最高 レハッピーなひとときる。

Havato ライヴのときは後ろで叩いてッから良く分かんねーけど、あとでビデオで 見るとすっけー猛烈に痺れちまう!!! やっぱ、「イウはこんな /!)でガンガンやって きたいね。特に、最近のコハちゃんCHECK IT OUT!!!

音楽を通しで何か伝えたいことってあるのですか?



Mamoru 伝えたいこともわかんねーのか、 Kill the Cock Rock!!! をね 。世の中傷 者が多いから置されんなより

Akinob 自分自身に正直であれ!ってこと。 Hironori Let's Spend The Night Together & Mother Fucker!!ってとこかな。

Hayato メディアの言ってることなんて鵜 呑みにするな!!! 自分で考えて判断しろ

Kiyonob それから全てのいカした音楽は ELVISからぬまったってこと。常に靴を力 タカタ傭らしてるし

毎回ナイスなジャケットですが 比較 的最近Blurred Recordsからリリースさ れたEPで、MOTORHEADをパロったの がありましたが、何か深い意味とかあるの ですか?

Hironori MOTORHEADは大好きた。

Mamoru 好きだからに決まってんだろ。

Akinob: MOTORHEADは中学の頃からずーっと呼きだからだね。 Mのブタちゃん は痺れるくらいたッチョ良いから、勝手に使っちゃったより

Kiyonob: 着は中学の時MOTORHEADの違っかけをやってたんだ。 レコードシャケット のメンバー写真にぶっとんでね。背もラウトでFILTHYで最高だろ。それ以来、Fast Eddy みたいなGuitar Manになりたくなっちゃったんだまねー。ストラトは大っ嫌いだけと!!! Havato MOTORHEAD最高!!! Filthy Animal Taylorみたいな男になりて一よ!!!

います。しかしその動きに反比例するかのごとく、アンダーグラウント シーンでは ゴア・グラインドが主流になっていますが、どう思いますか?

Mamoru フライントコアの知名度は上かった点ではいいにしゃね の? マーケットが広がることでのメリットはあると思う。なぜなら自分かそったったように、聴き

たいバントの音源を海外トレートなんかで 手間かけて聴く必要がなくなったからた コアクライントが主流になっているの。 良いことなんしいないかなりその中からで げーバントがまた出てくるのご期待する!!!

Akinob.最近のグラインドコア・C・Nは、あまりチェッタしてないので、ほとんど分かんないな。しまに雑誌に載つかってるディスク・レビューをんか見でも、欲しいと思うのなんかごつはりたし、メタル・チックなのには全然興味ないし、そんなのよりはRip Off Recordsから出てる場合バンクロック・ハントの方が、何万倍もかっていいねる

Kiyonob 何か主流かなんてことより、自 分達にしか出せない 音をやるって事が大 切たよ

Hayato しょうは、 レらの好きなよう し にいってくだけ。 ソーメタルなんていちいち気にしてられねーよ



一たた個人的な意見ですが、コア・グライントは嫌いではありませんが、 時期の メロコア並に相製運造が目立っている気もするんです。しかもその多くがスタジオ・バンドのケースが多いです。

Hironori そりようなペントの事はあまり知らないからなんとも言えないが、スタジオバン小で彼等は満足しているのかな?

Akinob. コア・タライントつていったい 回 ? ま その辺にいいとして ハントやって て 番楽しいのは、やっぱライブしゃない!? まには全く理解できねっや!!!

Kiyonob なんで増えているかにもよるけど。「血なまぐさいの大好き中りって奴からえているのかなり、犯罪に走るより全然いいじゃん」 たた、「流行っているから俺達も「っていったなら話は別だけどね、流行りばかり追いかけている奴なんでくだらねーのばっかたろ

Mamoru 1レもコア・クライントに嫌いしゃない、シタークラウンド・シーンが活性化するのであればこい 例えるのはどうかと思うんだけど メロコアにしても OFFSPRING辺りからとけらかんなくなったけど、LEATHERFACEなんかはよかったよ。同じこと言えるんだけとコア・クラインドでもなんでもいいんだよ。つけわかんなくなっちゃったシーンの中でも本物だけ見つけられたらいいんじゃないの? GBN のスタイルから言えばスタシオバントってのは理解できなーな。気合い入んないコレ、Hayato いっぱりライブが一番だと、タジオ・ハンドなんで絶対嫌だ!!!

話は変わりますが、Harshit Recordsについて教えて下さい。選考基準は?

Kiyonob 日かケツの万にピピッと来るようなかつこいいハントを出したいと思っているよ。とた、まにRAW、FILTHY&HARSH!でいきたいから、"クリアでタイトなんてのはお断いって言ってし是非出してほしいって全然言われないけどれ



Akinob そっそう 体中の穴と言ったから物凄くまい よると出させてくれる。 な強烈なやっを出していきたいね !! ナチュラルトリップさせてくれるやつなんでし う最高にオッケー牧場たね!!!

GORE BEYOND NECROPSY/Harsnit Recordsの今後の予定を教えてください。
Kiyonob 今 GBN と ARSEDESTROYERと 可奴隷の3: Way split LPを作ってもしてたまた。
予定より大分遅れちゃってもけと、なんとか早く出せるように頑張ってます。元
GIBBEDDVoたった小澤ちかんのMeat Box RecsとHarshitとの共同リリースになる予定、タライントコアの初期衝動消載でメタル度の、チカイ支測定不能の猛烈盤なので、みんな4649ね。そのあとは、たじかにP出したいんで、また曲作り始める予定、ライサはとにか、今まで通りFullthrottleで、強烈なのるバリバリぶちかまして行くんで、企画者の皆様トントン声かけで下さい。

Hironori: 当面の そして必ず果たしたい目標に「ロックの殿堂入り」だ。Bowleは我々まり、 足先に殿堂入りを果たし様だか、彼等(シャカードへントリックス)とならぶ殿堂入りが出来た場面を想像するとたまらなくエキサイティングだ。 そうは思わないかい? Hayato これからもズッコボコにキメまくって行くんて、そこんとこ夜露死苦!!!! 海外もまた行きたいね !!!!!! 推かお金出してくれないかなー!?

Kiyonob. 最近みんな退屈でしかたねーらしいな。 これからオレ道のキグに来るしかねール

Mamoru サレのショウを観たけりやす!!!

GORE BEYOND NECROPSY c/o Akinob Ohtaki

837-6 Horinishi Hadano-shi; Kanagawa 259-1331 JAPAN http://www.gorebeyondnecropsy.com/

GOREBEYONDNECROPSY

Analdrillingrind Harshit Core!

Photo by Efu Matsumoto



本誌『FAST』で紹介するレコードやCDは、あく までも本誌スタッフが気に入っているものを掲載 しているに過ぎない。逆に紹介されるべきレコー ドが掲載されていないこともあるだろう。決して そのレコードが悪いわけではなく、ただ個人的に 目に止まらなかっただけだったり、聴いても印象 に残らなかっただけの理由だ。そのため結果的に 片寄った選出になってしまっているが、良いと思 えないレコードを無理して良い評価を与えて紹介 しても意味ないし、そんなレビューはつまらない。 もちろん世界中には膨大なレコードが存在するの だから、全てを紹介するなんて無理な話だ。

とにかく自分の耳や目で確かめ、自分自身の判 断基準から善し悪しを決めてほしい。あくまでも レビューはライターの主観に過ぎず、その意見が



せん。あらかじめご了承下さい。



ARRAHAM CROSS

[Peace can't Combine] 12"LP

Crust War (MCR Company 157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

否定しようのないくらいDOOM的なクラストコアである。DOOMや EXTREME NOISE TERRORが解散、方向転換してしまった現在において、 このクラスティーズが真のクラストコアを伝承する唯一のバンド、とい う見方もできるのではないだろうか。ノイジーであり、良い意味で汚い ヘヴィなギターや絞りきった濁声ヴォーカルは、上記バンドに劣らない 程の理想的目つ極上クラストコア魂全快。未発表音源や『Tokyo Crusties EP』等含む貴重な音源を収録したトータル・レイジング・クラストコアで ある。最近復活したので東京のクラストコア・シーン、いやハードコア・ シーン全体を揺れ動かす存在になっていくはずだ。



ALLEGIANCE

[Here Today...]CD

MCR Company (157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

アメリカのGMMからのリリース予定であったが、都合によりようやく MCRから陽の目を見る形となった。カナダと日本のパンクスで構成さ れていて、80年代のUKハードコア・パンクを展開。馴染みやすいメロディ・ ラインはストリート感覚というより、色気を出さない裏通り的感覚によっ て心を打つ。自分達の言いたいことの矛先も背伸びをして国や政治に向 けるのではなく、自分達を含めた身の周りにいるパンクスの"在り方"を 歌い、いろんな意味で肩の力抜いたリアリティのあるパンクロックなのだ。 気取った言葉も不要。心底パンクロックを愛する者に伝える夏のパンク スのためのパンクロックであり、決して過去のものではない。



AMDI PETERSENS ARME

fBlood Ser Mere Virkeligt Up Da Film 17"EP

Havoc Records (P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

世界最強のパンク・レコード・コレクターであり、80年代ハードコアのマ ニアでもあるFelixの鋭い聴覚には、毎度感服させられる。世界中のクー ルなバンドを見つけだしては、自らのレーベルからリリースしてしまう のだから、コレクターとしては最高だろう。このバンドはコペンハーゲ ンのDIYバンドであり、初期BLACK FLAGを思わせる。以前はYOUTH BRIGADEといった初期Dischord風だったらしく、80年代前期USハー ドコアを現在に蘇らせたかのようだ。乾ききった音でよりシンプルに、よ りハードにキメたハードコアは、グラインドコアを通過した今風のバンド を聴き慣れた私にとって新鮮味がある。



ASPHYXIA

[Wardrugs]7"EP

Crust War (MCR Company 157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

敵は同じであるはずなのに音楽スタイルをジャンルとして区切ってしま った結果、現在のハードコア・シーンは分離してしまった。ハードコアの 核ってそんなに軟派なものなのか? 10年程前に活動していたASPHYXIA のメンバーが進んだ道は様々であるとはいえ、元々ひとつであったこと を証明しているように思う。これがハードコアなのだ。それ程前にこん なバンドがいたことに驚きつつ、短命に終わってしまったことが悔やま れるが、この本当に貴重な音源から当時の大阪クラストコア・シーンの 夜明けを感じとって震えるようではないか。音質の善し悪しは関係ない。 まずは彼等の功績を讃えよう。そしてCrust Warに感謝。

AVULSION

Prince of a Thousand Enemies 17"FP

Impatience Or Indifference Records (3201 3rd St. San Francisco, CA 94124 USA)

OJ以来の悪名高い殺人マシンという触れ込みに、思わず苦笑してしまった。 たしかに残虐性の極めて高いグラインドコアであり、その例えば誰もが 納得するはずだ。今までのAVIII SIONの場合は、ギターのMattが以前 やっていたSLAVE STATEの方が恐ろしいまでの冷酷日つ生々しい暴力 的な音に驚かされたし、格差も感じていた。しかし、今回展開するグラ インドコアは同等の音を吐き出しているのだ。聴いた者全てが殺人級の 爆裂音に終始震えるであろう。この喜ぶべき復活作は、最高傑作に相応 しい名盤である。サムライ趣味がにじみ出ているジャケットで、思わず 共感というか興味深く手に取ってしまうはずだ。



BASSAIUM

FBe Addicted to Suffering PainJCD

Ritual Records

(Ikebukuro Wakabayashi Bldo 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

日本において恐らく最も活動的なデスメタルだろう。結成してそれ程期 間は経っていないが、特定のジャンルに収まることなく様々なバンドと 共演した結果、轟音を求めるあらゆるリスナーを頷かせる力量は上がる 一方だ。ハードコア・シーンからの指示も高かった様式化する前のデス メタルとしての魅力があり、もしかすると昔のDEICIDEやMORBID ANGELIX トにデスメタルらしさのあるバンドなのかもしれない。フロン トマンがヴォーカルに専念しているのも、ライヴにおける魅力を引き立 てているのは間違いないし正解だと思う。また、アンダーグラウンドと オーバーグラウンドを行き来できるバンドとしても貴重な存在だ。

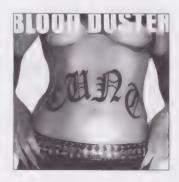


BLOOD DUSTER

[Cunt]CD Ritual Records

(Ikebukuro Wakabayashi Bldo 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

偉い人の嫌いな言葉がオンパレードな、オーストラリアきっての馬鹿野 郎共。クソ垂れアティチュードも然りである。だからこそ快感を覚えると いうものだ。馬鹿と天才は紙一重であることをこのアルバムで目一杯証 明し、全世界を"股"にかけて活動するのはA.C.以来と言えるのではな いか。ロックンロールにグラインドコアを一表現として取り入れたノリの 良いサウンド・センスは、GORE BEYOND NECROPSYにも通ずる。形 にハマった音楽的概念を遥かに超えた、100% Grinding Death Rock という彼等のキャッチコピーに偽り無し。ただふざけてやっているので はなく、実は音楽的に深いことをやっているのだ。



BRODY'S MILITIA

Violence Solves Some Things 7"EP

Get The Axe Records (P.O.BOX 3019 Oswego, NY 13126 USA)

WWEのスーパースターであるジ·アンダーテイカー(当時はテキサス·レ ッドという名で出場)のデビュー戦は、テキサス州ダラスで相手がブルーザ・ ブロディだったとは有名な話。その偉大なるプロレスラーの名を拝借した、 元HELLNATIONのDoug率いるニューバンドである。残念ながらあの独 特のブロディの雄叫びは聞けないが、凄まじいハードコア・スラッシュが 炸裂し、ブロディがチェーンを振り回して暴れているのを連想させる程 格好良い。弾け具合は、どこかパワーヴァイオレンス以降のファストコ ア周辺の音を感じさせ好感度大。ヘヴィなロックンロール且つパンクな ANTI-SEENのカヴァーもマッチしている。





CATTLE DECAPITATION

7"EP

Prono de Accidente (P.O.BOX 460686 Escondido, CA 92046 USA)

この45rpm片面のみのレコードが、某レコード店において他7"EPと同額だったので腑に落ちない気分に陥った。しかし聴いた途端不快感は一掃。とはいっても3曲のみというのは不満ではあるが。このバンドは既に御存じかと思うので詳しく説明しないが、メンバー皆多才であるのがひしひしと伝わってくる。ジャケットからゲボゲボな内臓・病理系と思われそうだが、意外とハードコア的なシンブルさがあり、終始テンションが高い。とはいえ、2nd以降のCARCASSのようなクランチ・スラッシュ満載のグラインドコア。濁声だけどスペイン語による巻舌ははっきりと聴こえ、それが手伝ってかBRUJERIAを思い出した。



CAUSTIC CHRIST

7"EP

Havoc Records (P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

新たなハードコアを追求するということで、偉大なるAUS ROTTENが選んだ解散という決断は結果的に良い方向へ向かわせたと、誰もがこの激クールなレコードを聴いて感じたと思う。そのうちのメンバー2人とSUBMACHINE、REACTのメンバーを加え、スウェディッシュ・ヘヴィ・クラストコアを展開した最強のニューバンドがコレ。ボジティヴな音楽的姿勢が伺えるだろう。勢いのあるバタバタした感じと、上記タイプのバンドより明るい感じが80年代中期、つまりクロスオーヴァー期のアメリカン・ハードコア的な要素を感じ取ることができる。でもメタル臭さはほとんどナシ。21世紀のアメリカン・ハードコアの展望も明るい。



CIRIL / ARMISTICE

split12"LP

Know Records (P.O.BOX 90576 Long beach, CA 90809 USA)

両者の共通点は間違いなくダーティーなバンク・ロックである。少々前にリリースされたものだが、個人的に結構聴きこみ愛着のあるレコードなので、あえて紹介。前者は今年1stアルバムを同レーベルよりリリース。実はこのレコードの曲は全て収録している。CHRISTIAN DEATH的というか、影のあるドゥーミィーなバンクロック。後者ARMISTICEは言わずもがなポリティカル・ハードコアである。CIRILの存在を忘れさせてしまう程スラッシュ炸裂の好音源なのだ。UKだけでなくUSちつくな部分もあるのがミソ。話題にもならなかったレコードだけどそれがどうした。個人的に爆音で聴きたいマスト・アイテム。



CORRUPTED / CRIPPLE BASTARDS

split 7"EP H.G.Fact

(105 Nakano Shinbashi-M,2-7-15 Yayoi-cho,Nakano-ku,Tokyo 164-0013 JAPAN)

CORRUPTED史上最速(?)のビートによりスタートし、良い意味で期待を裏切られつつ少々驚かされた。初つばなのHELLCHILDを彷佛させるミッドテンボの激重サウンドは、私的にたいへん好みである。しかし、やはりそこはCORRUPTED。これだけでは終わらず、徐々にスラッジ且つドゥーミィーなハードコアの真価を発揮し、気が付けばすっかり暗黒の地に足を踏み入れる。またしてもいろんな意味で奥の深い音楽性に恐れ入った。イタリアのCRIPPLE BASTARDSは、進化の過程にある90年代以降のグラインドコア・サウンドを炸裂。初期NAPALM DEATHだけがグラインドコアだけではないのた。

DAHMER / MESRINE

split 7"EP

E.N.D. Records (2255 Ch. Demers St. Nicolas, Quebec G7A 2N3, CANADA)

カナダ出身の冷酷非道なマーダー・グラインド頂上決戦盤であり、両者ともにその筋では知らぬものはいないであろう。人間の優しさ等無縁な超ダーティー・ハードコア・グラインドは、シリアル・キラーを描く上で必須アイテムである。"ミルフォーキーの食人鬼"ジェフリー・ダーマーの名を頂戴した前者は、その非道なる出来事を音で再現しようとしながら、完全に世の中をナメた態度で突き進む。本作最後の曲では彼等流の"お笑い"があり、その辺が単なる馬鹿なマニアで終わらせないセンスを感じさせて良い。片や後者も、負けじとダーティー且つへヴィなグラインドコアを披露。この種の中では所謂正統的な楽曲といえるが、かなりグレイトな出来。



DESTROYER 666

[Cold Steel... for an Iron Ige CD

Season Of Mist (24, rue Brandis 13005 Marseille, FRANCE)

本誌『FAST』を製作するきっかけともなった衝撃のライヴを体験し、完全にD666症に侵されてしまった私にとって、この新作は聴く前から悪いはずがないと決まっていた。案の定、聴いてみると期待以上の出来に震えが止まらない。初期ブラック・スラッシュを好み、徹底的にアンチキリストを訴え続ける彼等を前に、レビューすることすら危ぶまれる。あえて注文をつけるとすれば、デスメタル系レーベルからのリリースのため、リスナーを限定しかねないということ。あとはもう彼等の訴えに耳を傾け、ファシストに対して戦うのみである。安易にジャンルを限定しては100%彼等の魅力は理解できない。重要なのは訴えと姿勢である。



EXCLAIM

[Critical Exploder] 12"LP

Sound Pollution (P.O.BOX 17742 Covington, KY 41017 USA)

本誌を手に取ってくれた人には何の説明も不要だろう。激烈ファスト・ハードコアであることは変わらないし、パワーヴァイオレンスを超えた超クレイジーなハードコアである。ノイズ度が増して、狂気溢れるぶつ壊れサウンドは更に鋭く磨きをかけ、破壊的にハードコアを突き進めている。殺伐とした姿を写し出し、速さ、それも半端じゃない激速サウンドに比重を置いた、本当の意味でのハードコアの究極形態にまた一歩近付いた。ライヴに匹敵するハイテンションも良い。あえてSLIGHT SLAPPERS、FUCK ON THE BEACHに次ぐ東京のクレイジー・ファストコアという言い方をさせてもらうが、キレつぶりは全く劣っていない。



EXTERMINATE 『理想と現実』CD

MCR Company (157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

名古屋を拠点に活動中で、ライヴでのステージングが一際激しいゆえに話題先行した感は否定できないが、その実力の真偽はこの1stを聴けば答えが出る。元ORDERとREALITY CRISISのメンバーによって結成されたらしく、80年代の日本のハードコアを感じさせる危険極まりないスタイルをぶちまけている。世間体ばかり気にしてリアリティのない歌詞を並べているだけのファッション/ポーザー・バンドと違って、自分達の目の前にある疑問や不満、そして怒りを音とともに吐き出しているからこそ本物だと確信する。ハードコアとはこういうものだと改めて気付かせてくれるはずだ。真のハードコア・ファンに捧げる一枚。





FREEBASE [My Life My Rules] CD Hardhoiled (Muhlenstr. 823552 Lubeck, Germany)

KNUCKLE DUST等のメタリック・ハードコアと同等に語られるUKバンドだが、活動歴を遡るとFREEBASEは明らかに別格。AUS ROTTENやHUMAN ERROR等ポリティカル・バンドが多数収録されたCONFLICTのトリビュート盤に参加(しかも1曲目)したり、先頃『MAXIMUM ROCKNROLL』にレビューが掲載されていたのも、彼等が単なる流行のメタリック・ハードコアとは違うことを意味する。あくまでもハードコアにこだわり、MADBALL辺りを彷佛させるオールドスクールな直線的音を、より低音域を重視したブルータルな仕上がりにしている。この暗さはUKならではといえるし、アメリカのバンドには出せない音だ。



活動的なバンドなので知らぬ者はいないでしょう。まず特定のジャンルにカテゴリーするのは難しい。このような場で説明する便宜上ハードコアと言いたいが、従来のハードコア・スタイルから大きく飛躍したサウンドからは、バンド名が示す通り"未来"を感じさせる全く新しい姿がある。ハードコアを聴いてハードコアを演奏することを否定はしないが、この音からは他のスタイルを吸収したからこそ生まれた斬新さを感じるのだ。今は特異な存在とされるかもしれないが、数多く存在するバンドの中に半永久的に埋まることはない。メディアにより作られた"最新"の音楽ではなく、ミュージシャン側が生んだ本当の意味での"最新"音楽だと思う。



GATE Soon to Be Sosomized 7"EP Bad People Records (P.O.BOX 480931 Denver, CO 80248-0931)

スピード・フリークスにとって技術面は二の次であって、まずは勢い任せのスピードが大事だと思う。しかしこの栃木のグレイトなGATEは、両方とも兼ね備えていてグッド。センスを技術でカヴァーすることなく、バランス良く二つの力がぶつかりあって、最高の状態での演奏を聴かせてくれるのだ。不協和音を撒き散らし、グラインドコアから一歩踏み出したDISCORDANCE AXISやCRYPTOPSYの流れにある、フリーミュージックも含んだ"先"を行く音楽。つまり、型にハマった事をやっていないからこそグレイトであり、面白く、そしてあくまでもヘヴィだから良いと感じるのだ。ロゴやアートワークから一概に判断してはいかん。



GODS OF GRIND |Dead End Psycho Suspense|CDR

意外と生息数の少ない初期グラインドコア・スタイルを徹底的に追求した長野出身のバンドで、地元シーンでの活躍は東京に住んでいる者にも伝わってくる程勢力的である。巻では長野のDISCORDANCE AXISという異名があるほどエクストリームに満ちたグラインドコアを展開し、音数の多い強力なドラミングを柱に疾走する。全体的にグラインドコアの醍醐味がたっぷりと含まれつつも、クランチのある箇所における精度は楽曲能力の高さを垣間見ることができるはずた。最近のグラインドコアはメタルの中で語られるようなキチッとした作りが多い中で、衝動的な音楽性はハードコアならではであるし、パンキッシュでもある。

GORE BEYOND NECROPSY

[Fullthrottle Chaos Grind Machine] 7"EP

Blurred Records (482-1 Naka Kambara Ibara Shizuoka 421-3213 JAPAN)

異論はあるかもしれないが、私としてはレコードで聴けるゴア・ビヨンドと、ライヴにおけるゴア・ビヨンドでは良い意味で違う印象を受ける。ノイジーなロックンロールでありつつ基本路線はグラインドコアであり、音源に関しては常に最狂の内容を聴かせてくれる。今回は特にMOTORHEADを意識をしたかは分からないが、ロックンロール全開であり、要所を押さえたブラスト全開のグラインドコア・バートも良い。ライヴはそれを更に超えた、期待以上のクレイジーな出来であるのは言うまでもなく、誰もが毎度満足しているはずだ。バンド名から判断しているのか、彼等に対して間違った認識をしている一般音楽誌には遺憾である。



HELLNATION

IThrash WaveJCD

Sound Pollution (P.O.BOX 17742, Covington, KY 41017 USA)

近年リリースされた作品をまとめたディスコグラフィー的作品で、全世界のスピード・フリークスが彼等の音楽性に狂喜するであろう。一切の迷いを感じさせないウルトラ・ハイ・スピードによって、ハードコアに絶対的不可欠なメッセージ性を十二分に引き立てるだけでなく、体全体で表現されたエネルギーの発散はハードコアの本質的な部分を感じさせる。98年の日本ツアーに合わせて製作された日本の最重要バンドのカヴァー集や、様々な論議を呼んだ『At War With Emo』等話題の多い作品が列ねる。それらを再編集しリマスターを施して月日の経過を感じさせない狂気のサウンドが蘇り、瞬く間に圧倒させられる。



HOLDING ON
Just Another Day 12"LP

Havoc / THD Records / 1% Records

メンバーの年齢的にリアルタイムで体験していないと思うが、80年代末期の最も熱かった時代のニューヨークを中心に存在したバンド達を彷佛させる。所謂初期Revelationからリリースされていたようなバンドのことである。しかし、まずハッキリ言っておきたいのはメタリック路線ではない。皆が大好きなモッシュとシンガロングするためのグレイト・ナンバーに溢れ、鬼速いというよりもライヴ感のあるノリの良いスラッシュ・ハードコアである。80年代をこよなく愛するHavocがリリースしたも納得のいく、全てが本気モード全開のハードコア。彼等の場合も例にもれず、音だけで判断できないバンドなのは言うまでもない。

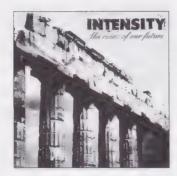


INSULT / RUIDO

Know Records (P.O.BOX 90576 Long beach, CA 90809 USA)

少々古い作品だが良いスプリット盤なので御勘弁を。言わずと知れたボストンの変態野郎ANAL CUNTのSethをフューチャーした、ブルータル・ハードコアのINSULT。ヴォーカルの絶叫はANAL CUNTを連想してしまうが、ANAL CUNTのような変態グラインドではなく、結構まとも(?)なボストンならではのパワフル路線を行くハードコア。一方後者は、FUCK ON THE BEACHとスプリット盤を出したバンドとしても知られているRUIDO。よりファストでヘヴィなグラインドコアな印象を与えているが、やはり彼等もLOS CRUDOSを彷佛させるLAのラティーノ・ハードコア・パンクというべきだろう。





INTENSITY

The Ruins of Our Future 12"LP

Deranged Records (P.O.BOX 543 STN. P Toronto On. M5S-2T1 CANADA)

スウェディッシュ、イングリッシュ、スパニッシュの3言語で歌うという、実にユニークなことをやっているけど全く違和感なし。80年代ユースクルー・ハードコア・スタイルという形容が正しいと思う程、スタイリッシュ且つハイスピードで展開していく。ライヴは凄いという噂で、これを聴けば納得いく程つかみ易いノリの良さ。いくつか曲がフェイドアウトしていくのはマイナスだが、欧州で絶大な人気のあるニュースクール/メロディック・デスメタル風の美しいメロディを、所々自然と聴かせるのは注目すべき最良点である。アートワークにもその趣味が表れているように思う。ちなみにこのDeranged幣のジャケットの色は、数色存在する。



JOHN BROWNS ARMY / REAGAN SS

Gloom Records (P.O.BOX 14253, Albany NY 12212 USA)

アルバニー出身ハードコアの通称JBAと、ライヴでの凄まじさには定評のあるREAGAN SSとのスプリット盤。前者JBAは、CURTAINRAILのレコードの片面だったことが有名ではないだろうか。アルバニーといえばハードコアとメタルの融合が有名な地になった感もあるけど、はっきりとそのような雰囲気には呑まれていないものの、パワフルさと極悪具合では影響を感じさせる。一方の後者は人気急上昇中のバンドであり、80年代の影響を良い形でさらけ出している。一見シンプルそうで実は奥が深いという、聴けば聴く程味が出る一筋縄では行かない楽曲群は、本拠地LAの音楽的な幅の広さによるものなのか?名前もバンクで好き。



KRIGSHOT

[Orebromangel] 12"LP

Sound Pollution (P.O.BOX 17742 Covington, KY 41017 USA)

在籍メンバーが、日本盤をリリースし来日も果たしたNASUMにも参加しているので、メタル系を含む幅広い層に知られるようになった感がある。とはいえ、本隊KRIGSHOTはグラインドコア成分ゼロなのは言うまでもない。所謂スウェディッシュ・ハードコアを体言した正真正銘ハードコアであり、細かく砕け致ったノイジーなサウンドが炸裂する。重量感もタップリ。そういった意味ではNASUMとは違った極限を追求したサウンドであり、マシンガンのごとき攻撃の手を一切緩めず、呼吸をする暇さえ与えない。ちなみにMEANWHILEのメンバーも参加、例によって毎度お馴染みのSound Pollutionよりリリース。



KUNGFU RICK

[Statues to Stones, Soilders to Bones]7"EPGloom Records (P.O.BOX 14253, Albany NY 12212 USA)

全体的に感じられる音圧と、デスメタル系特有のブルータルな音色によってメタル的印象を与えてしまうが、決して100%メタルではない。ヴォーカルのデス・ブラックメタル系特有のサタニックなヴォーカル・スタイルが、よりメタルな雰囲気を作り出しているが、むしろハードコアによる暗黒世界の表現である。また複雑に曲が展開するとはいえ、メタル様式に収まらないハードコア然とした箇所が多く、音楽姿勢そのものはあくまでもハードコアであるのが重要だ。最も彼等をメタルとして認識している人はいないであろう。一見マイナスに捉えられそうなバタバタしたドラムも、良い意味でハードコア的な疾走感を生んでいる気もする。

LITTLE BASTERDS [Greed Slaves 17"EP

Dewa Records (89-11 Ishinada Tonojima Tsuruoka Yamagata 997-0815 IAPAN)

様々な形で音源を発表していたし、本作品が既に話題になっていること もあって御存じかと思う。埼玉出身のハードコアの1stEP。裏ジャケット にある"Grind Crusty"というコメントは、全く偽りのなりクラスト色の 濃い口ウな展開がある。ある意味、PeacevilleやEarache(いづれも初期) といった1980年代後半のUK・ハードコアを彷彿とさせるダークさ、へ ヴィさを兼ね備えている点において、グラインドコアなる言葉で持ては やされる前のハードコアを感じた。音の持つ威力は圧倒的にグラインド コアに勝るものはないので、ハードコアが本来持っていた姿勢を感じる クラストコアとの融合は自然的である。



MACABRE / CAPITALIST CASUALTIES split7"FP

D.B.D. Records

意外な組み合わせは、スプリット・レコードの魅力のひとつ。今は属して いる主要なシーンは違うけど、両者は同じスピリットを持っていたとい うこと。前者は既に発表済の曲で残念だが、アウトテイク・バージョンだ から良し。レコード全体の作りが後者のシーンに向けたレコードのよう な印象を受けるので、新曲じゃなくてもMACABREの代表曲を聴けると いう意味でグレイトといえる。後者CAPITALIST CASUALTIESは少し スローダウンした感があり、爆裂するスピードを期待してはいかん。し かしShawnが独特な声で歌い、JeffとMikeが弾くとCAPITARIST節にな ってしまう。もちろんMaxのドラムも重要。



MUKEKA DI RATO **[Acabar Com VoceJCD**

Sound Pollution (P.O.BOX 17742 Covington, KY 41017 USA)

ラテン系ハードコアの再評価の高まる中、真打ち登場といった感じでブラ ジル本国以外初のリリースとなる3rdアルバム。"本場"ならでは軽快なサ ウンドでありつつ、尋常ではないエネルギーの発散度数は、憧れているが ゆえに真似をする偽称ラテン系バンドとは深みが違う。CRUDOSにも言 えたことだが、言葉の意味は全くわからない。しかし"熱さ"は間違いなく 伝わってくるのだ。意外とキャッチーな楽曲とトポケたアートワークが微 笑ましくもあり、そのギャップと対比するかのごとくシャウトするヴォーカ ルと、デス・ヴォイスー歩手前のダミ声の掛け合いもまた最高。まだまだ ブラジルにはクールなバンドが潜んでいる!!!



OX BAKER / HAYMAKER split7"EP

Deep Six (P.O.BOX 6911 Burbank, CA 91510 USA)

Deep Sixお得意とも言うべきINFEST系爆裂ハードコアによる、最重要 スプリット盤である。前者がINFEST~CAPITALIST CASUALTIES的、 後者がNEGATIVE APPROACH以降のヘヴィ系といった感じで、両者同 じというわけではないがそれだけブチ切れ具合は半端ではなく、フル・ ヴォリュームで聴きたくなるハードコアなのだ。どちらかと言えば、イカ レ具合の凄さから前者OX BAKERの方が私的には好みである。後者は 今風のカオティック路線がどこか見え隠れしながら、ダーティーなハー ドコアはSHEER TERRORを思い起こさせてナイス。カナダの次世代有 カハードコアであり今後も要チェック。





RIISTETYT Tervetuola Kuolema 7"EP

Havoc Records (P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

今更説明するのもなんだが、フィンランド語でExploitedを意味する偉大なるハードコアである』まずは叫びながらも滑らかな口調のヴォーカルにより、心地良く聴こえるだろう。波のように流れて行きながら、北欧ならではのドッシリとした重さのあるハードコアで全体を覆い、ギターソロが多少あるとはいえ一言でメタリックなどと言ってはいかん。ただ技術にはしるのではなく、もっと効果的に使っているのだ。実にまとまった内容であり、これを聴いて何も感じない人とは話が合わん(と思う)。Fight Recordsよりライセンスを得てボーナストラックを追加、そしてリミックスしたお得盤である。祝復活!!!



SKITSYSTEM

FEnkel Resa Til Rannstenen 12"LP
Hayoc Records (P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

スウェディッシュ・ハードコア好きで有名なHavocと、スウェーデンのNo Tolerance Recordsとのスプリット・リリースによる、世界中で大人気のスウェディッシュ・ハードコア。ヘヴィなクラスティ・ハードコアで、スカンジナヴィアならではのD-beatは破壊力抜群。NASUM/KRIGSHOTの Mieszkoとのプロデュースで、その筋の奇才によって超一流のブルータル・クラスト・サウンドを作り上げながら、更に期待を裏切らないスウェディッシュなダーティー路線も良い。メンバーが元々どのバンドに在籍していたのか毎度話題になるが、サンクスリストを見るとやはり彼等の意外な人の繋がりが見えて面白いのだ。



THE SOLUTION

MCR Company (157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

Oi/スキンズはメディアに取り上げられることが少ないとはいえ、UNITED'97は知っているだろう。この岐阜を拠点に活動しているTHE SOLUTIONは、そんな有り余る力量を出し切れなかったUNITED'97を 母体に結成されたバンドであり、その実力は保証できる。口ずさみたくなる馴染みやすいメロディをやってのけるセンスと、パワフルなルックスとが相俟って、バンドとしての魅力が十分に発揮されている。怒りや訴えを音にそのまま反映させるのではなく、音楽で気持ちを伝えるという意味で非常に哀愁が漂い大人を感じさせる。しかし、下地にあるのはあくまでもパンクロックであるのは間違いないのた。



SPITTING TEETH

Leagacy of Cruciality e.p. 17"EP
1-2-3-4 Go!!! Records (716b 47th Ave NE, Seattle WA 98105)

ハードコア好きを自称するのであれば、絶対に聴くことをお薦めするのがSPITTING TEETHである。7"EPというハードコアに絶対不可欠なフォーマットに、パワー、エナジー、スピードというハードコアの3大要素(魅力)を全て惜し気も無く詰め込んだ。NEGATIVE APPROACHを継承するパンドの大本命。彼等がカヴァーしている曲も超伝説的ストレイトエッジ・パンドのPROJECT Xというのが、センス良いし最高ではないか。ボストン〜ニューヨーク周辺の音を出しているという説明では不満足かもしれん。しかし、本気でやればこんな音になるのだと思う。非バンダナ系ファスト・ストレイトエッジだ。必須!!!

SUICIDE PARTY

ſYou're All InvitedJ7"EP

Deadalive Records (P.O.BOX 97 Caldwell, NJ 07006 USA)

最近のDeadaliveの作品は、絶対に外してはならないと確信している。 忘れかけていたハードコアの風力が満載だからだ。このSUICIDE PARTYも例にもれず。その筋では有名な人材が集まってできたバンドという説明は、もはや付加価値にしか過ぎない正真正銘ハードコアである。パワー漲る凄まじい音色であり、パワフルに、そしてシンブルにキメるからこそ凄みも増す。これこそ本物と言えるだろう。素晴らしいセンスの良さは音だけでなく、クールなジャケットにも表れている(近年のジャケットの中でNo.1)。音、アートワークと全てが今年ベスト10に入り、DISCHARGEやPOISON IDEAにも迫る大傑作。



SWARRRM / BLOODRED BACTERIA

splitCD

MCR Company (157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

日本のグラインドコア・シーンの中核として全国区で活動するSWARRRMと、グラインド系バンドとして知名度が向上しつつあるドイツのBLOODRED BACTERIAによる超強カグラインドコア・スプリット盤。まず神戸の SWARRRMは美しいピアノ演奏から始まりつつ、欧州のメロディックなデスメタル/ニュースクール、グラインドコア等をカオティックに超越。 測しいライヴだけでない一面も見せている。一方のBLOODRED BACTERIAは、デスメタルにドップリと浸かることなくハードコアとしてのグラインドコア を披露。両者ともアンダーグラウンドなレベルでの活動をしているバンドらしい音だ。



TEAR IT UP

[Nothing to Nothing] 12"LP

Deadalive Records (P.O.BOX 97 Caldwell, NJ 07006 USA)

現在のアメリカのハードコア・シーンで、最も勢いを感じさせるニュージャージーの大人気ハードコア・バンドの1stフルレンス。これを聴いて何も感じない者はいないと言い切れる、素直にかつこいいと思える楽曲群。高いテンションをキーブしつつ、爆発力のある加速とブチ切れ具合は80年代のハードコア、例えばYOUTH OF TODAY辺りを感じさせながら、単なる焼き直しに終わってないところがこのバンドの凄さであり魅力でもある。影響を受けたバンドを自らのスタイルとして消化したからこそ、聴いたことのあるような親しみやすいメロディが生まれたのだろう。ある意味、アメリカン・ハードコアのスタンダード。



TEAR IT UP / FAST TIMES

split7"EF

Yong Blood Records (217 W.Main St. Ephrata, PA 17522)

ニュージャージーの新進気鋭のハードコア・バンドによるスプリット盤。ネームバリューのある前者TEAR IT UPは、上記アルバムに劣ることのない出来栄えに大満足である。むしろ短期間に集中させて一気に爆発させるという意味では、本作の方が絶対上といえる。楽曲面での劣り等一切ない。後者FAST TIMESは、地元シーンでは結構知名度、人気共に上がっているようだ。女性と思われるヴォーカルが、私としては聴き慣れない声の音域なので、新鮮であり気持ちが良い。ギターとベースも前へ前へと出ようとしながら、各音そのものが主張しようとしている。全体的に違和感なくまとまり、もの凄くパワフルな印象を与えている。



Record Reviews FAST 4



U.B.R. [Yugoslavia Panic]7"EP

Crust War (MCR Company 157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

オリジナル音源は1983年リリースのカセットテープ『Kae's Alternativa』 である。これが社会主義国家であった約20年前の旧ユーゴスラヴィア のバンドであるということに驚く。政府によって活動を弾圧された最悪 の環境下で、これ程まで破壊的なサウンドをやってしまうとは信じられん。 矢継ぎ早に攻め立てる音の洪水は、彼等の置かれていた緊迫した状況 がそうさせていたのかもしれない。自分達の生きる道はハードコアであ リパンクであると、最も原始的な方法と手段で自分達の主義主張をアピ ール。そこにはDISCHARGEに迫る研ぎ澄まされた緊張感が収まっている。 ぬるま湯に浸かっていては表現不可能な爆裂作。



II C A (Self Infection ICD

MCR Company (157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 JAPAN)

80年代の日本のハードコア・シーンの勢気が冷めぬ1991年に結成され、 以降様々なスプリット盤等に参加しその勢いは止まることはない。2nd にあたるこのCDからは、出身地である福岡がハードコアを語る上で外 すことのできない層の厚さを物語る。語弊であるのを承知で書くが、初 期YOUTH OF TODAY並の勢いと狂気を感じるのは恐らく自分だけでは ないだろうし、3人組とは思えぬ音の厚みとパワーも凄い。エモーショ ナル且つカオティックな面を時折見せることにより、80年代と90年代 を肌で感じたこのバンドならではの独自性として光っている。九州だけ でなく全国区で活動してほしい超強力バンド。



UNCURBED

[Punks on Parole] 12"LP

Sound Pollution (P.O.BOX 17742 Covington, KY 41017 USA)

MOTORHEADばりのダイナミックな爆走ロックンロールに、ハードコア をブレンドしたスカンジ・ハードコア・パンク。良い曲だからこそ乗るって もんだ。パンク・ロックらしく、ツイン・ヴォーカルによる掛け合いは最強 なのは当然だし、特に「Buy Me Out」では超鳥肌もののカッコ良さ。これ を聴いて震えないなんておかしい。最高にセンスの良いジャケットに書 かれているコメントもグレイト。かっこいいジャケットだから印象に残る、 という点でも大成功と言える。これ以上言葉にならない程の大傑作なのだ。 サンクス・リストにあのMARDUKの名があり、スウェーデン・シーンが複 雑に絡み合っていることがわかるだろう。



UNHOLY GRAVE / SABBAT split7"EP

The Sky Is Red

誰が想像したであろうこの組み合わせ。音楽性の違いは明解ゆえに、実 現はまずあり得ないと思っていたし、想像できたとしても空想の世界に 過ぎなかった。これは100%、現在のレコード大量りリース・ラッシュの 中に埋むれはしない。何と言ったって、片面は我が国が誇るスラッシュ メタル・マスターSABBATだからだ。分かりきっていることだが、絶対に そこらのバンドは比ではないのだ。18年のキャリアは伊達じゃない。対 するUNHOLY GRAVEもそのキャリアに押されぬ、ロウなグラインド・ ハードコアを炸裂。毎度ネタの豊富さには呆れる程感心させられる。こ のレコードこそ、スプリット質の醍醐味満載である。大傑作、且つ名室。

VITAMIN X [Down The DrainJCD

Havoc Records (P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

バンド名からストレイトエッジであることを明確に表し、ポリティカルな姿勢を崩さず音楽に取り組んでいるので、彼等の意思が中途半端でないことを感じるだろう。80年代ユースクルー・ハードコアの人を惹き付けるノリの良さとファストコアの激スピードは、ポリティカルなメッセージをストレートに伝える上で重要な役割を果たす。絶対にハズすことのできないそのメッセージは、各曲に解説文を記載する程大切にしながら、LARMの意思を受け継ぐかのごとく全世界へとアピールしている。結果、全てが本気だからこそ母国オランダだけでなく、昨年テロの標的にされたアメリカの同士にも届いたのだ。ブックレットにある全てのメッセージをチェックしてほしい。



VIVISICK

Punks were Made Before Sounds7"EPSound Pollution (P.O.BOX 17742 Covington, KY 41017 USA)

定評ある強力なライヴにより今まで多くのバンドを撃破した、御存し東京ハードコア・シーンの震源VIVISICKである。世間一般的に言われているクロスオーヴァー期のメタリックなスラッシュではなく、OUTOやSYSTEMATIC DEATHといった80年代の日本ならではのハードコア・スラッシュを21世紀へと蘇らせた、そんな感じだ。現在を生きる彼等の音楽は、90年代のパワーヴァイオレンスを通過したバンドだからこそ、我々の心を捕らえたのだと思う。よって懐古主義ではないのだ。振り絞って吐き出した、エナジー溢れシャウトする金切り声も最高。ライヴが良いバンドは、レコードも良い。日本好きのレーベルよりリリース。



WOLFBRIGADE

[Progression / Regression]CD

Havoc Records (P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

このバンドは言わずと知れたWOLFPACKが前身であり、同名のバイカー・ギャングが存在したために改名せざるを得なかった。慣れ親しんだ名前だっただけに残念である。暗くとも美しいメロディをベースに、スカンジナヴィア流クラストコアで内に秘めた怒りを一気に爆発させる。女性ヴォーカルをフューチャーした曲があったりと、幅のある楽曲群を難無くこなしてしまうのはベテラン勢にしか出せない凄みだろう。クラストコアとグラインドコアが入り交じったシーンで活動、そして交配した結果、暗さだけでなく重さも重要なポイントとなった。その点がSKISTSYSTEM 切りと比較される要因にもなっているのだと思う。



YACOPSAE

[Einstweilige Vernichtung]12"LP Vulgar Records/Scrotum Records

最近の活動力とレコードのリリース数には目を見張るものがある。このアナログLPはドイツの上記レーベルによるスプリット・リリースで、CD 盤はSlap A Hamが彼等を形容した言い方だが、なるほど、たしかにレコード針がとんだのかと思う程ストップ&ゴーを多用し、その加速感はHELLNATIONに匹敵する。個人的にはむしろグラインドコアと言ったほうがピンと来る程、ヘヴィで曲の輸郭はハッキリとしているように思うし、緩急するタイミングはSPAZZ以降のパワーバイオレンスなグラインドコアである。ドイツ語なのでわからないが、ポリティカルなメッセージあり。





[Collapsed -Ritual Records Sampler-JCD Ritual Records

(Ikehukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku Tokyo 171-0031 IAPAN)

元々HELLCHILDをリリースするためにスタートしたRitual Recordsは、 今や世界レベルで活動する轟音バンドを発掘。サポートをし続ける日本 が誇るレーベルとなった。バックグラウンドはメタルとしながら、ハード コアを網羅したエクストリーム・サウンドは21世紀の新たな音楽スタイ ルとして確立。レーベルとしての方向性を明確に示した2度来日した SOIL ENT GREENを筆頭に、NASUM、SKINLESS、ORIGIN BENUMB CEPHALIC CARNAGE, DISASSOCIATEといったアンダーグラウンド・ シーンと密接な繋がりのあるバンドを多数収録している。29曲収録の2 枚組激安サンプラー。



V A [Meaningful Consolidation, 2, And Jungle Unity, 317"FP Blurred Records / Fun At Home Records

「Speed Star Collection! なるサブ・タイトルから察する通り、まさに その名に相応しい最速の4バンドが参加している。どのバンドも自らの 音楽を象徴するかのような最狂ナンバーを提供し、単なるコンピレーシ ョンの域を遥かに超えた日本の最重要レコードと化した。にわか什込み の流行且つ軟派なバンドとは、センスとパワーにおいてレベルの差が歴 然としているのは言う間でもない。ライヴにおける凄さが滲み出た結果 であり、ライヴを続けているからこそ得た成果なのだと思う。同じスピ ードを重視したバンドであっても、感性と表現の違いからここまで違う ものができるのかと、各バンドに感心させられるだろう。



Thrash of The Titans 12"LP Know Records (P.O.BOX 90576 Long beach, CA 90809 USA)

レーベル側の意図としては、80年代クロスオーヴァーのリバイバルのよ うだ。ジャケットもACCUSEDを手掛けたGaitherを起用、すっかり気分 は80年代である。タイトルは、有名なスラッシュメタルのツアーをパロ ったかは不明。しかし参加バンドに誰もが震えるだろう。DS-13に始ま って、最後は元CRUDOSのメンバー在籍のTRAGATELO。個人的には LACK OF INTERESTとSTRONG INTENTIONが同じレコードに収まっ ていることが、M重要なポイント。意外なところではA.C.とHIRAX、日 本からはFUCK ON THE BEACH & BEYOND DESCRIPTIONが参加。 ちなみにD.R.I.も収録してるが、相変わらず昔の曲に頼ってます。



Wizards of Gore -A Tribute to Impetigo-112"LP Displeased Records (Ronde Tocht 7d NL-1507 CC Zaandam HOLLAND)

当時のデスメタル系ファンジンには営連のように記事や広告が掲載され、 デスメタル自体アンダーグラウンドな存在であった時期にもかかわらず、 粗雑な音から更に地下を突き進むバンドとしてカリスマ視されていた IMPETIGO。ここ数年再評価が高まり、実に豪華なトリビュート盤の完 成といったところ。日本を含む世界中のデス/グラインド系バンドが集結。 メタル度の高いバンドからハードコア色の強いバンドに至るまで、知名 度問わずこれだけのメンツを集めたレコードは本当に奇跡的。どのバン ドも"らしさ"を損なわない聴きごたえのある内容であり、ゴア・グライン ドを語る上で絶対はずしてはならない偉大なトリビュート盤である。

FEATURE



ハードコア、グラインドコア、クラストコア、デスメタル等々を網羅したヴァイオレンスなサウンドを次々と輩出し、90年代地下シーンの立て役者となっていたSLAP A HAMのレコードは恐らく一家に一枚、いや地下ハードコア・ファンであれば数枚は所有していると思う。しかし皆も御存じと思うが、残念ながら今年になってレーベルとしての運営をストップさせてしまった。今回は、今更ながらそんなSLAP A HAMに敬意を払って、私的に大好きな初期の作品を紹介します。



FEATURE

SLAP A HAMとしてはここ数年、草大な赤字に悩ま されていたようで、このままレーベルを継続させるの は不可能だと判断し、OTOPHOBIAのCDを最後にリタ イアという道へ踏み切ったようだ。後期SLAP A HAM は所謂100%DIYレーベルではなかったと思うが、この シーンでバンドなりレーベルを続けていくのは困難で あることを、改めて証明したかのような出来事であり ショッキングである。実際問題、バンドなりレーベルを やっていても売り上げ分の回収は難しいので、結果的 に収入なんてほとんど無いに等しい。そのような意味で、 このシーンの中心にいて誰もが一目置いていた。大御 所SLAP A HAMがリタイアするというのは正直悲しい 反面、困惑したのも事実だ。

また、ファンとしてはSLAP A HAMが無くなってし まうことが残念であるのと、レーベル・オーナーである 秀才Chris Dodgeの今後が気になるところだが、リタ イアするのはあくまでもポジティヴに考えているようだ。 それを聞くと少しは安心する。



INFEST / P.H.C split 8" flexi



MEANDERTHAL Fighting Music.



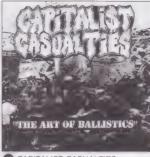
[SHORT, FAST + LOUD!] #9

今後のSLAP A HAMについて。一時は廃刊と発表さ れていた激烈ハードコア・ファンジン『SHORT, FAST + LOUD! は、Jeff RobinsonとAthena Kautschが運営 しているSIX WEEKSがその意思を受け継いで、来年に は#9を発行する予定だ。ちなみに現時点での最新号# 8の表紙は日本が世界に誇るヘヴィロック・マスター HELLCHILD。バンド側、またはマネージメントを担当 しているRITUAL RECORDSとしては、なぜヘルチャ が表紙なんだ?といった感じのようだが、彼等の音楽性 と活動歴を考えると極自然といえる。その写真はヘルチ ャらしいアグレッシヴなライヴを写し出していて非常に カッコ良い。復活を願う!!!

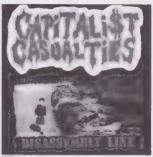
リリースが予定されていたSHANK、LANA DAGALES、 IRON LUNG、CONGA FURYのレコードについてはDEEP SIX、625、SIX WEEKSがそれぞれリリースする模様。 DEEP SIX / 625からSHANKのLPが、CONGA FURY はSIX WEEKSがリリースする。また、SLAP A HAMは 膨大なディストロ・カタログを抱えているので、当面は メイル・オーダーでSLAP A HAMのバック・ナンバーや、 世界中の激烈ハードコアのレコードを手に入れることが できる。気になった人は是非利用してください。



#5 STIKKY [Cuddle 17"FP



CAPITALIST CASUALTIES The Art of Ballistics 17"FP



CAPITALIST CASUALTIES Disassembly LineJLP/CS/CD



fBllleeeeaaauuurrrrgghhh!-The Record J 7"EP



#9 CROSSED OUT



NO COMMENT [Downsided]7"EP

自分が聴きたいレコードを出したいという理由で、 1989年にChris DodgeによってSLAP A HAMはス タートした。そしてあくまでもリリースするバンドは パンク。一般的評価が低く、ある意味正当な評価を されていないバンドのリリースを目的とし、もちろん、 Chris自身が好きなバンドであるのは必須条件だ。

#1はMAN IS THE BASTARDの前身バンドとい えるPHCと、東海岸のマッチョテイストに通じるフ アスト・サウンドがクールなINFESTのスプリット盤で、 フォーマットもナイスな8"Flexi。この頃の作品は各 1000枚プレスである。ちなみにこのレコードも 1000枚プレスで、イエローとブラックの2色印刷の ジャケットにブルー・ヴィニール。しかし、この#1の スプリット盤は多くのブート盤が存在したので、後に カタログ·ナンバー#1.5で7"EPにフォーマットを 変えて再発している。

#2はChrisお気に入りのMELVINS。後のレーベル・ イメージから考えると違和感のあるリリースといえる。 フォーマットは8"Flexiで3回各1000枚プレス。1st が通称"Buzz"カヴァー、2ndが"Dale"カヴァー、 3rdが"Lori"カヴァーとプレスごとにジャケット、ヴ イニール・カラーが異なる。

#3はNOFXのFat Mikeが運営するFAT WRFCKの 看板バンドとして有名なNO USF FOR A NAME。こ れも今考えると意外な選出だが、ChrisがNO USF FOR A NAMEのオリジナルメンバーであることを考 えると違和感はないだろう。また、この頃のChrisは FAT WRECKのスタッフとしての顔を持っていて、そ ういう意味から考えると音は違うが、SLAP A HAM とFAT WRECKにはトボけたアートワークに共通性 が見出せて面白い。ちなみに数年前、ボウリングを やっているというFat Mikeを含むFAT WRECKのス タッフ全員の写真が初期『EAT MAGAZINE』に掲載 されていたのだが、その中にChrisが一際目立って 写っていた。また、Chrisのナイスな顔を表紙に使用し、 インタビューを掲載したFAT WRECKが発行するメ イルオーダー・カタログもあった。ちなみに、このレ コードは計4000枚プレスされて、1st2000枚はグ レイ·カヴァー。2nd2000枚はパープル·カヴァーで、 内41枚ヴィニール・カラーが異なるものが存在する。

MAN IS THE BASTARDOEric WoodE, INFEST のMat DominoによるプロジェクトNEANDERTHAL の唯一の音源が#4。今更説明するのもなんだが、こ のEric WoodがMAN IS THE BASTARDを形容す る造語"パワーヴァイオレンス"の生みの親。INFEST、



V.A. (Son of Billeeeeaaauuurrrrqqhhh!]7"EP



SPAZZ 7"FP



CAPITALIST CASUALTIES



MONASTERY / ANARCHUS



LACK OF INTEREST / SLAVE STATE split 7"EP



RUPTURE [Baser Apes.17"EP

NO COMMENT、CROSSED OUT、SPAZZ、CAPITALIST CASUALTIES、LACK OF INTERESTといった西海岸で活動していた一部のバンドを示す言葉となったのは言うまでもない。1stプレスは1000枚のブラック・ヴィニール。2ndプレスは200枚ブラック、100枚パープル・ヴィニール。

#5は一応、未だに解散していないことになっているSTIKKYのOFF THE DISKから500枚リリースされていた7"EPの再発盤。一連のファストコアの元祖ともいえるボンコツ・スラッシュ・ハードコアが心地良い。2000枚プレスで、内13枚がブルー・スプラッター、43枚がイエロー・スプラッター・ヴィニール。話は前後するが、オリジナル盤のリリース前にLOOK OUTとMANIAC EARSによるLPが存在するが、後者MANIAC EARSにはリップオフされたと、後にChrisは公言している。怪しいMANIAC EARS盤を買うなら、ボーナストラック入りSOUND POLLUTIONから再発されている盤をお薦めします。

#6はMELVINS以上に意外な選出のFU MANCHU。 今ではメジャー・レーベルとの取り引きもある程、人気、 知名度共に一般的評価は高いが、その分、地下シー ンでの評価は下がる一方だ。1000枚プレスだが、他 のレコードのように遊び心の無いリリース

本当は200~300バンド集めたコンピレーション 盤を作りたかったとChrisは言うが、それでもこれまでのレコード概念を超えた驚異の41バンド計64曲 収録した#7。収録されているバンドから、当時地下シーンがどのようになっていたのか、またどんな繋がりがあったのか見えてきて面白い。その意外性を確認して欲しい。私的にはEXTREME NOISE TERRORとANAL CUNT、INFEST、ATROCITY、MINDROT、IMPETIGOが同じレコード上にあるのが興味深い。ちなみに製作にたいへん苦労したため、これを作った後2度とこんなレコードは作らないとChrisは言っていたが、結局この後も2枚同様のシリーズでリリースしている。

いよいよパワーヴァイオレンスのというか、SLAP A HAMの本詞発揮といった感じの名盤#8。しかも、後にこの地下シーンで大人気パンドとなる CAPITALIST CASUALTIESの1stEPである。INFEST とは違った力任せのスピーディーなへヴィ・ハードコアに、誰もが狂喜したことであろう。後に#10の CD盤に収録されたようだが、個人的にはこのジャケットは好きなので、絶対このレコードは所有しておき

たいところ。SLAP A HAMの中でも3本の指に入る 程好きな1枚。1500枚プレス。

#9は伝説のCROSSED OUTの1stEP。従来のハ ードコアやグラインドコアにはない壊れ具合は、狂 気に満ちた新たなハードコアの誕生を感じさせた。 ライヴをあまりやっていなかったので、どんな記録 でも有り難いのだ。1000枚プレスのみ。近年、# 55でCROSSED OUTのディスコグラフィー盤として CDとLPがリリースされている。作りがしつかりとし ていて、ブックレットも見ごたえありなので必須。

パワーヴァイオレンスを語る上で、絶対外してな らないCAPITALIST CASUAL TIESの1stアルバムが #10である。名盤。ハードコアのエナジーとパワー が最高潮に達し、それをスピードにのせて暴れまわ るという、パワーヴァイオレンスを絵に書いたよう なサウンドなのだ。これを聴いて何も感じなかった 人は、即効ハードコア・ファンであることを取り消す べき。いや、嫌いな人はいないだろ? IP盤は1stプ レス1000枚。カセット盤は1stプレス500枚のみ。 CD盤は3回プレスレ各1000枚。

#11は言わずもがな、NO COMMENTの名盤中 の大名盤。これは初期SLAP A HAMのリリース作品 の中で、CAPITALIST CASUALTIESと人気が二分 したのではないだろうか。HERESYを彷彿させなが ら更にスピーディーに壊れまくり、究極のハードコア は全てが極限に達し、そんな完璧なまでのハードコア・ レコードに震えが止まらない。これ以上言葉になら ない強烈な1枚。1stプレスは1500枚のクリア・ヴィ ニール。2ndプレスは1000枚のブラック・ヴィニール。 後に自主製作とDEEP SIXのディスコグラフィー盤 に全曲収録。

驚異の収録バンド数を誇る『Bllleeeeaaauuurrrgghhhh!』 シリーズ第2段の#12。なんと52バンド計69曲収 録の記録更新。3000から4000枚プレスされている ようだが未確認…。個人的にはMACABREとSLAVE STATE収録が嬉しい。意外なバンドが多数収録され ているので要チェック。現在はEARECHEやRELAPSE といった大型レーベルからリリースしているバンド も収録し、彼等が元々どこに属していたのかわかる ので、#7同様収録バンド名を眺めているだけでも 面白いのだ。

#13はまたもやChrisの趣味丸出しのMELVINS。 3000枚プレスで、5"、6"、7"の各クリア・ヴィニー ルが存在する。またそれぞれにステッカー付きのも のや、レーベル部分の色違い等数種類存在」、コレ クター泣かせの1枚-

初期のSLAP A HAM、パワーヴァイオレンス・バンドの レベルの高さが伺える#14。MAN IS THE BASTARDS とCROSSED OUTのスプリット盤で、どちらもパワ ーヴァイオレンスを語る上で絶対外せないバンドで あり、貴重な歴史が詰まっている。マニア泣かせは 極限にまで達し、ジャケットは写直を用いたタイプと ロゴだけのものと2種類存在する。1stプレスは 1000枚がレッド・カヴァー、残り1000枚がブルー・ カヴァー。2ndプレスは1000枚。

#15はメキシコのANARCHUSと、オランダとス ウェーデンの混合バンドMONASTERYのスプリット 12"。CDやLPだけでなくカセット量が存在するのは、 前者がメキシコのバンドというのが理由だろう。両 者とも文句なくグラインドコアであり、他の初期 SLAP A HAMの作品が良すぎるので見落としがち だが、かなり格好良いレコードなのだ。未聴の人は 是非!!! 個人的には後者MONASTERYに興味津々。 なんと当時EARECHEと契約を結んでいたENTOMBED のLarsと、後に日本盤もリリースしたオランダのブ ルータル・デスメタルSINISTERのRonとAADからな るバンドなのだ。6年前、AADにインタビューしたと ころ、このMONASTERYは単なるお遊びバンドで、 デモを作っておしまいと言っていたが、じゃあこの スプリットの音源は何なんだ!?

2日間でレコーディングされた、1993年リリース のSPAZZの記念すべき1stEPが#16。以後、当時 大量リリース中だったポルノ・グラインダーMEAT SHITSを越えるリリース・ラッシュとなった。また当



Final SLAP A HAM Special FAST | 53



M.D.C. / CAPITALIST CASUALTIES



SPAZZ / C.F.D.L. split 7"EP



PLUTOCRACY

時はグラインドコアと括られていた。彼等の場合、音楽性だけでなくこのフリークス趣味、プロレス趣味等々のユニークなアートワークも各方面に影響を与えた。1stプレスはイエロー・カヴァーで1000枚。2ndプレスはグリーン・カヴァーで700枚。

私としては#17がSLAP A HAMカタログの最強 であり、星の数程存在するハードコア・レコードの中で、 ハッキリ言って5本の指に入る。これ以上の暴力レ コードと未だに出会っていないし、パワーヴァイオレ ンスなる言葉が最も相応しい暴力的サウンドに、私 は当時スピーカーの前で完全KOされた。SLAVE STATEの数少ないリリース作品の中の1枚で、1曲目 から超ブルータル・ハードコアが炸裂。何が彼等をこ こまで怒らせるのか。LACK OF INTERESTもSLAVE STATEに負けない暴力サウンドで応戦し、完全ノー ルールの初期『UFC』を彷佛させる程で、まさに音の 暴力といったところ。また、この60年代辺りのアメ リカを思わせるイラストが、単純ながらシリアスに 冷酷な暴力を描き、このレコードに詰まっている暴 力をより引き立てている。聴き過ぎてレコードの溝 が心配...。

#18はCAPITALIST ASUALTIESのEPで、マッチョ思想、愛国主義に対する皮肉を込めたと思われるジャケットがナイス。1stEP、1stLP同様に初期SLAP A HAM、または初期CAPITALIST CASUALTIESが異常な程カッコ良いのは誰もが認めるであろう。今の彼等がカッコ悪いとは言わないが、この頃はやはり格別だ。2000枚プレスで、当時あの『Fiesta Grande』で売られていた超限定盤が50枚程存在する。

SLAP A HAMの魅力的な部分を私的に紹介するのであれば、この#19は必須である。コンピューターを駆使した最近のワザとらしいものではなく、切り張りして作られたバンクなデザイン・ワークが魅力的。これまでのRUPTUREからSLAP A HAMサウンドに

変化した。レーベル面の「that means don't bootleg this, va bastard! なるコメントもナイス。

#21はCAPITALIST CASUALTIESと、MDCこと MILLIONS OF DEADCOPSのスプリット7"EPで所謂ベネフィット盤である。STTIKY絡みで言えば、MDCの登場はあり得ない話ではなかったが、ここへ来てMDCがSLAP A HAMからリリースされたのは、西海岸ハードコア・シーンの人脈が垣間見れて嬉しい。一方のCAPITALIST CASUALTIESも彼等流の爆走ハードコアを炸裂している。CHAOS UK風のジャケットも良い、3000枚の1stプレスのみ。

日本のC.F.D.LことCRAZY FUCKED UP DAILY LIFEと、SLAP A HAMの総帥Chris率いるSPAZZのスプリット盤で2000枚プレスの#23。このレコードがリリースされた後、SLAP A HAMまたはSPAZZ周辺でカンフーやブルース・リー等の香港映画モノが急増した』やはり仕掛人はやはりChrisだと思う。SPAZZが香港に行ったからなのか理由は定かではないが、香港の杲ブルース・リーの専門店でSPAZZのCDが売っていたのは興味深かった。

PLUTOCRACYの1stLPで、SLAP A HAMと625 の共同リリース。625ナンバーだと#2。そのMaxと SPAZZのDanによるハンドメイド・シルクスクリーン のジャケットで、メイルオーダーのみの500枚プレスという、これまたマニア心をくすぐる1枚である。後にドイツのANOMIE RECORDSからフォーマットとジャケットを変えて再発された。

SLAP A HAM RECORDS

P.O. BOX 7337 ALHAMBRA, CA 91802-7337 U.S.A. catalog@slapaham.com http://www.slapaham.com

DEADLINE

UK トコア ク重鎮KNUCKLE DUSTのメート 在籍の以上リートング。下記のSLAPSHOTのサホート たまい CONFLICT やBUSINESS DAMNEDまといった 編成レバントとライラを行なっているUK い重要ストリートンシク

SLAPSHOT

様々な問題によって左派ハートコア・バークスから敵対視されていたキング・オブ・バストン・ハートコア。最近は時が解決したといえる程験悪なも一トは立ち表った。背中を丸め腹を叩きなから「俺はそいた」とうイブ前に発言しておきながら、そこうの若手ハートとは比になられ程のブレイン・なってってがを展開。生きた証人として今後の活躍に期待。SLAPSHOT関連の話だが、NEGATIVE FXのLPが再発された。

This page photo DEAULINE & SLAPSHOT

Photo Gallery FAST | 55



HELLNATION

JAPAN TOUR 2002

全スピード・フリークス必見!!! 激速ハードコ アHELLNATIONが再び来日!!! 今回のツア ーに合わせてMCRよりHELLNATION、SLIGHT SLAPPERS、REAL REGGAEの3way CDの発 売が急遽決定!!! 即売り切れる可能性大なの でお早めに。次号発売時点で、既に入手困難 になってるかもしれませんが紹介します。

9/10 Maizuru @ Bad Brains w/Real Reggae, Whatever, S.F.M

9/11 Okayama @ Pepperland w/Real Reggae, Idol Punch, and more.

9/12 Himeji @ Mushroom w/Real Reggae, Core, and more

9/13 Osaka @ Fandango w/Real Reggae, Slight Slappers, and more

9/14 Nagoya @ Huck Finn w/Real Reggae, Slight Siappers Out Of Touch, Nice View.

9/15 Tokyo @ 20000V "Far East Fast Blast Festival" w/Real Reggae, Slight Slappers, and more

9/16 Tokyo @ Watts w/Vivisick, Crucial Section, Exclaim, Flame, Fuck On The Beach, Shikabane, Struck, 324.

DS-13 DEMON SYSTEM 13

11月下旬~12月に、大人気スウェディッシュ・ハードコアがジャパン・ツアー決行!!

CEPHALIC CARNAGE

グラインド・ハードコアの中で最も革新的なCEPHALIC CARNAGEの特望の新作が、いよいよ今夏Ritual Recordsよりリリース。



ISSUE #1

J版発行2001年12月1日 / 第2版発行2002年4月1日

COMIN CORRECT / DESTROYER 666
HELLNATION / INTERNAL BLEEDING
JUNGLE ROT / STRONG INTENTION
WHAT HAPPENS NEXT?

レコード店(ALLMAN、diskUNION等)に在庫がない場合は現金書館で、定価300円(税込:+送料140円(普通郵便代)を下記までお送りたさい。

F-FACTORY

〒192-0372 東京都八王子市下柚木2-31-7-103

次号#3は、年内には発売お楽しみに!!

F-FACTORY & BRUTAL TERRORISM PRESENTS

High Speed CHAMPIONSHIP



OND NECROPSY



HE BEACH





EDDORISM



2002.11.2(SAT) AT KOENJI 20000YOLT / OPEN 18:00 START 18:30

info. 20000VOLT...03-3316-6969



FOR SPEED FREAKS

UNDERGROUND FAST HARDCORE MAGAZINE

ISSUE #2



speed

kills

Vitamin X Holding On Reagan SS Senseless Apocalypse Krigshot Gate Gore Beyond Necropsy OR SPEED PLEAKS

FAST

UNDERGROUND FAST HARDCORE MAGAZINE

ISSUE # 350YEN

FAST FOR SPEED FREAKS #2

kills

On Reagan SS

e Brigshot Gate

Necropsy

GOREBEYOND NECROT

REAGAIN

FOR SPEED FREAKS

FAST FOR SPEED FREAKS #2

UNDERGROUND FAST HARDCORE MAGAZINI
ISSUE #2
350YEN

お詫びと訂正

2002年11月2日(土) 20000VOLTで行な われる『FOR SPEED FREAKS』に出演する バンドに誤りがありました。

B FUCK ON THE BEACH → I NK6

バンドのメンバー及び関係者に御迷惑かけた事をお詫びすると共に訂正させて頂きます。



ng On Reagan SS ppse Krigshot Gate and Necropsy GOREBEYOND NECK REAG

FAST FOR SPEED FREAKS #2

UNDERGROUND FAST HARDCORF MAGAZINI

ISSUE #2



kills

ng On Reagan SS pse Krigshot Gate

nd Necropsy

VITAMIN X¹



!REAG!

(HO)